

令和7年度

入学試験  
問題集

対話の先に未来を創る



MORIOKA UNIVERSITY

盛岡大学

# 目次

令和7年度 入学試験問題出題者講評	1
令和7年度 学校推薦型選抜	
小論文（文学部）	8
小論文（栄養科学部）	9
令和7年度 総合型選抜（併願制）	
小論文（文学部）	10
令和7年度 一般選抜 試験問題	
国語（文学部）	12
理科（栄養科学部）	29
英語（文学部・栄養科学部）	37
解答例	46

# 令和7年度 入学試験問題出題者講評

## 学校推薦型選抜 小論文（文学部）

### 1 出題の意図（形式・傾向）

一昨年は水道行政に、昨年は生成 AI の活用に関する主題であった。今回は受験者も経験した年代の「中学校の卒業式における染髪についての生徒指導」を主題とした。志願者には日常的に身近な問題について考え、議論し、小論文を書く訓練をしてほしいという願いをこめている。

形式は、例年通りに問1が要約、問2が問1を踏まえた意見の論述とした。問1は昨年のように筆者の考えの要約ではなく、登場する2人の校長の考え方をそれぞれ読み取るものとした。しかし傾向を変えたわけではない。問1は、問2の論述にあたって理解しておかなければならない2校長の考えの違いを分かりやすくするための内容である。

要約は、傍線部（1）は直前に校長の考えがまとめられているため比較的易しいが、（2）は傍線部の後にエピソードが紹介されており、まとめは次の形式段落にあるため、近視眼的な読み方ではたどり着きにくいと思われる。文章の構造を俯瞰的に見取る練習が必要だ。

問2の論述は、問1が観点を誘導する形にしたため、例年以上に賛成／反対の立場が取りやすいと思われる。そのぶん論述において、理由の明示や論理の構成に注目して評価することを意図した。

なお問1・問2を通じて、誤字・脱字および文法の誤り等、表記も例年通り採点対象としている。

### 2 採点後の講評

問1・問2の合計平均得点率は7割で、例年通りであった。残念なのは誤字・脱字および文法の誤りが散見されたことである。内容以外の減点はなくすべきだ。普段から人に校正してもらうことを勧めたい。なお9割以上得点した受験者も全体のおよそ2割であった。

問1（要約）はおおむね好調であった。一方、問2（意見の論述）では、ふたつの課題が見られた。ひとつは、観点が具体的に足りていないことである。たとえば「（1）の校長に賛成」では具体性が足りない。「主人公だから入場させるという考えに賛成」や「堂々と見せることに賛成」のように、具体的にすれば論点を絞ることもなり、そのぶん論述に字数を割くことができる。もうひとつは、自論の根拠が本文中に閉じてしまうことである。たとえば「指導方針を緩めることに反対」ならば、本文中の母親が言った「それは裏切り行為だから」では根拠にならない。「一度示したルールを後出しで変えないのが社会の約束だから」のように、自論は本文の外から示されるものなのである。

## 学校推薦型選抜 小論文（栄養科学部）

### 1 出題の意図（形式・傾向）

問題形式は、問題文および資料（図表）をふまえて解答させる資料提示型をとった。問では、日常生活の中で身体活動量（歩数）を増やすことのメリットや現状に関する問題文、国および岩手県の日常生活における目標歩数、岩手県における一日の平均歩数の推移に関する2つの図表をふまえて、「どのようなことをすれば岩手県民の日常生活における歩数を増やすことができるか」について、400字以上500字以内で自分の考えを書くことを課した。その際、問の意図を踏まえ自分の考えを適切に展開できているかを評価した。問の意図を踏まえていない場合、解答が未完成あるいは字数超過・不足の場合は0点としたほか、主語・目的

語・述語の対応、副詞、形容詞の使い方の誤り、文意が不明となるような文章構造上の誤り、文体の不統一、原稿用紙の誤用、誤字・脱字、送り仮名の誤り、話し言葉の使用、不適切・不明瞭な文字表記がある場合は減点した。

## 2 採点後の講評

問では、問題文と図をふまえ、「日常生活における歩数が少ない理由」を考察したうえで、「どのようなことをすれば岩手県民の日常生活における歩数を増やすことができるか」について、制限字数内で自分の考えとその根拠を述べる必要があった。例えば、理由としては、「首都圏と違って地方は公共交通機関が発達していない地域が多く、自家用車依存の生活スタイルが定着している」などが考えられる。そこから「地域全体をカバーする、低料金の公共バスを走らせ、徒歩とバス利用で移動しやすい環境を整えるとよいのではないか。これが実現すれば、通勤、通学で車を利用しなくなり、その結果、歩数が増えると考え」、「歩くことのメリットを広く普及・啓発するとともに、公共バス運行を強力的に宣伝するとよいのではないか。それは、環境が整っても本人にその気がなければ意味がないことに加え、せっかく良い取り組みでも知られていなければ利用につながらないからである」などが考えられる。解答では、問の意図をふまえて適切に自分の考えを展開していたものがあつた一方、問題の意図を踏まえていない、考えの根拠（理由）の説明がない、論旨が不明確である、段落構成が無いなど、内容の吟味が不十分なものもみられた。なお、受験生の平均点は48.7点であった（70点満点）。

# 総合型選抜（併願制） 小論文（文学部）

## 1 出題の意図（形式・傾向）

この小論文問題では、最近の若者は「すぐ辞める」といわれる中で、その背景にある若者の心情や若者に対するオトナ世代の認識について論じた文章の要点を捉えること（問1）、さらに、問1での課題文と問2での課題文及び図での内容を踏まえ、近年の若者の退職申し出が「突然」であることについて、世代間ギャップを考慮に入れ、受験者自身の考えを論じることを求めた。課題文については、「職場の若者」に焦点をあてたものであり、上司との価値観や捉え方の違いなどの世代間ギャップに関する問題提起は「若者」として分類される受験者においても、非常に身近なこととして捉えることのできる内容である。

問1は、課題文の要点を150字以上250字以内でまとめることを課し、読解力及び規定の字数で要約する能力を問うた。問2は、課題文と図を踏まえて、自分の考えを400字以上500字以内で述べる問題であり、課題文と図の両方の要点を押さえた上で自分の考えをまとめる能力を問うた。

問1では、4つの要点が押さえられているか（1.最近の若者は「すぐ辞める」といわれる。しかし、実際には大学新規卒業者の3年後離職率は、最近30年間で3割程度で推移している。あるいは変わっていない、2.「突然辞める」といわれるのは、若者が事前の相談なく、退職を心に決めた直後に退職することを伝えていからである、3.オトナ世代から見ると、若者が突発的に辞めたり、事件が起こったりすることが多い。若者を「よく分からない人たち」と捉えている、4.他方で、若者は上司や先輩に対し「やっつけられない」感情を抱き、絶望している）、要約文が全体として整合性をもっているか、を評価した。また、問1及び2とも、誤字脱字、送り仮名の誤り、不適切表記については減点対象とした。

## 2 採点後の講評

70点満点で、最低点は43点、最高点は63点であった。平均点は53点で約76%の正答率であった。問1では多くの受験者が一部の要点を押さえていたものの、すべての要点が適切に押さえられていない解答も見

られ、その点については減点の対象とした。特に、大学新規卒業者の3年後離職率は、最近の30年間で3割程度もしくは変わっていないという現状と最近の若者は「すぐ辞める」といわれていることの関連性について、明確に押さえている解答が少なかった。

問2では、課題文の要点を整理することに意識が向き、考えが不明瞭な解答や図に示されているデータに触れていない解答については得点が伸び悩んだ。一方、自身の考えが明確に示され、独自の論が展開できている解答については高い得点となった。課題文だけではなく、図の内容にも十分に注意して解答することを求めたい。

## 一般選抜 国語（文学部）

### 1 出題の意図（形式・傾向）

「現代の国語」「言語文化」の内容からの出題。問題は〔一〕〔二〕の大問二つから成り、〔二〕については（甲）と（乙）に分かれる。〔一〕と〔二〕の（甲）は近代以降の文章から、（乙）は古典分野からの出題である。ただし、本年度から古典分野については、昨年度まで出題されていた漢文問題がなくなり、古文問題のみの出題となる。〔一〕の解答は全受験者に必須、〔二〕は（甲）と（乙）のどちらか一方を選んで解答すればよい。出題の傾向自体は例年と大きく変わってはいない。

〔一〕と〔二〕の（甲）は漢字の読み書き問題から始まり、本文中の表現の意味を問う問題、さらには文章が正確に読み解けているか試す問題へと続く。今回は〔一〕で文学史に関わる問題もあった。〔二〕（乙）の古文では、最初に口語訳問題があり、本文内容の読解力を試す問題が続いている。例年通り、文法および文学史関連の問題も出題されていた。〔一〕〔二〕全体を通じて、特に難問と言えるようなものはなく、語彙に関わる知識と基本的な文章読解能力を身に着けていれば、比較的容易に対応できるであろう。

### 2 採点後の講評

#### 〔一〕

町田そのこ『夜明けのはざま』からの出題。葬儀会社に勤める女性が主人公の小説である。解答にあたっては、主人公や主人公を取り巻く登場人物たちの心情に注意したい。問一は漢字の読み書き問題。（イ）「コンキウ」の正答率が低かった。「窮」など、画数の多い漢字であっても正確に覚えておきたい。問二は、表現の意味を問うもので、(1)「辛気臭い顔」の正答率は六割であったが、④を選択する解答が二割を超えていた。本文に即して意味を考えたいところである。(2)、(3)の正答率は八割以上と高かった。問三は主人公の母親の心情を問うもので、正答率は九割近かった。母親の複雑な感情をしっかりと捉えられていたと言える。問四は主人公が母親と姉の気持ちをどのように受け取っているのかを問うもので、正答率は九割を超えていた。母親と姉の台詞に注目して読めば正答にたどり着くはずである。問五は主人公の心情を問うもので、これも正答率は九割以上であった。主人公とその恋人との会話を丁寧に読めば正答にたどり着くはずである。問六も主人公に関するもので、問五と関連する問題である。正答率は八割を超えていた。問七は作中の登場人物たちに関する正誤問題。正答率は九割だった。複数の登場人物の心情に注意して読めば、正当はしほられる。問八は文学史問題。正答率は七割近かったが、①、②を選択する誤答も見られた。文学者とその代表作は併せて覚えておきたい。

#### 〔二〕

（甲）桜井英治『贈与の歴史学』からの出題。解答にあたっては、「贈与」に付随する四つの義務について、それがどのようなもので、どのようなあらわれかたをするのか的確に読み取っておきたい。問一は漢字の読

み書き問題。(イ)「セイボ」、(ウ)「カコン」の正答率が低い。(ウ)では「カコン」の「コン」に「恨」字を当てる誤答が見られた。問二の正答率は、(1)は七割半ばと高かった一方で、(2)は三割に満たなかった。「吝嗇」を日常生活で使う機会はあまりないかもしれないが、文章中ではしばしば見かける。覚えておいてよい言葉である。問三の正答率は七割。よくできていた。問四も全体的にはよくできていたが、抜き出し方が正確でないために減点されているケースがあった。問五の正答率は三割強と高くない。②③を選ぶ誤答が目立った。正答を導くには「神々の競合状態」と表現された状態がどのようなものなのか、正確に把握できていなければならない。問六の正答率は四割弱。正答以外の選択肢を選ぶ受験生も、おのおのについて一割から二割程度認められた。内容合致に関わる問題は、一つ一つの選択肢の内容と本文の内容とを慎重に照合したうえで解答することが肝要である。

(乙)は『松浦宮物語』からの出題。遣唐使として唐を訪れた少将は、年若くして学才に優れ、また容貌も美しく、御門からのご寵愛も一入であった。この点を押さえたうえで設問に臨みたい。問一は口語訳問題。正答率は(1)(3)が六割強であったが、(2)は五割弱とやや低く、⑤を選ぶ誤答が二割以上あった。「おぼされて」は尊敬表現であるから、それを「お思い申し上げて」と謙譲表現として訳するのは不適切。問二の正答率は七割。問三は、特に「せさせ」の部分でうまく分けられない解答が出るかと予想されたが、そこも含め、全体的によくできていた。問四について、満点の六点が得られた解答はあまり多くなかった。正答として備えるべき内容のうち、いくつかを落としているためである。問五・問六・問七は、いずれも比較的良好にできていた。正答率は問五・問七で七割、問六は六割程度である。問八の正答率は四割弱と思いの外低い。①を選ぶ誤答が四割以上あった。藤原定家は鎌倉初期の歌人であるが、①の『古今和歌集』の成立は平安初期であり、時代的に合わない。文学史問題で失点すると、総点に響く。確実に得点できるよう、基本的なところはあらかじめしっかりと把握しておきたい。

## 一般選抜 理科 (栄養科学部)

### 1 出題の意図 (形式・傾向)

理科の問題は、いずれも教科書に記載されている内容を中心に作題したものである。教科書を勉強していれば十分であるが、その際、分野ごとの関連も意識して学習することが大切である。身につけた個々の知識を、いくつかのキーワードを使って簡潔な文章にまとめることなどによって、有機的に結びつけておくことが求められる。

### 2 採点後の講評

#### 〔理科－化学基礎〕

設問〔Ⅰ〕は、物質の構成元素に関する問題である。問1は元素・単体と化合物に関する説明文が穴埋めになっている。問2は物質を分類する問題であり、問3は元素の確認(炎色反応)について問う内容となっている。化学を学ぶ上での基本となる「物質とは何か」という物質の構成に関する内容であることから、平均点は25点満点で21.4点(85.7%)と非常に高い正答率であった。

設問〔Ⅱ〕は、元素の周期表と化学結合に関する問題である。問1はイオン化エネルギーの周期的変化に関する問題、問2は物質を構成する粒子の結合について答える問題、問3は電子式と構造式を描く問題である。本分野も化学基礎の中では基本となる「物質を構成する粒子の結びつき」すなわち化学結合に関する内容ではあるが、元素名や結合名にミスが多く見られ、平均点は25点満点で18.1点(72.3%)と設問〔Ⅰ〕より低い正答率であった。

設問〔Ⅲ〕は、中和滴定に関する問題である。問1は実験器具に関する問題であり、問2は中和滴定に使用される指示薬について、問3は計算問題である。例年、計算を必要とする応用問題は正答率が低く、今回も25点満点で11.9点(47.4%)と非常に低かった。本問のように応用力を問う問題に正答できることは重要である。また、科学の分野において誤差と精度を表すために必須である、有効数字についての理解度も十分ではないことが窺えた。

設問〔Ⅳ〕は、酸化還元反応に関する問題である。問1は酸化還元反応の定義について、問2は酸化数について、問3は化学反応式と濃度について問う内容となっている。物質の化学反応のなかでも重要な、酸化還元に関する理解度を試す基本的な内容ではあるが、残念ながら無回答が多く、平均点は25点満点で9.6点(38.6%)と非常に低い結果となった。

化学基礎では応用問題の正答率が低く、苦手意識が強いことが感じられる。単に四則演算力ではなく、「原理原則を理解して活用できる力」が求められる学科である。さらに、人間と栄養の関係を理解するうえでも化学反応の知識は不可欠であることから、高校までにしっかりと理解しておくことが重要である。全体の平均点は61.0点と6割以上ではあったが、入学後に求められる重要な点は押さえておく必要がある。

### 〔理科－生物基礎〕

設問〔Ⅰ〕は、遺伝子とそのはたらきに関する問題である。問1は、遺伝子の本体について探求する実験に関する問題であり、数題にわたって受験者の理解度を測る。問2は、染色体の特徴やそのはたらきについて受験者の理解を測る。生物の生命活動の存続に必要なすべての遺伝情報を担っている遺伝子について理解しておく必要がある。いずれも頻出分野からの出題であり、正確な知識を身につけていることが求められる。平均点は、25点満点で15.2点(60.7%)であった。

設問〔Ⅱ〕は、ヒトの体内環境の維持に関する問題である。問1は、ヒトの体液の一つである血液について、血液に含まれる成分とその主なはたらきなどの表を含めた問題形式で、数題にわたって受験者の理解度を測る。ヒトの血液成分の特徴と全身を循環する血液成分のはたらきについて理解しておく必要がある。平均点は、25点満点で14.3点(57.1%)であった。

設問〔Ⅲ〕は、ヒトの体内環境の維持に関する問題である。問1は、食物に含まれる栄養素(糖質・たんぱく質・脂質)の生体内での消化吸収などの代謝について、数題にわたって受験者の理解度を測る。生体内での栄養素(糖質・たんぱく質・脂質)の消化吸収に関連する代謝について深く理解しておく必要がある。分野ごとの関連を意識して学習することにより、個々の知識を結びつけて理解しておくことが求められる。平均点は、25点満点で11.7点(46.7%)であった。

設問〔Ⅳ〕は、生物の特徴と多様性に関する問題である。問1は、生物の共通性である細胞とエネルギー代謝の仕組みについて、植物の光合成の実験結果に関する計算問題を含めた問題である。すべての生物に共通する特徴の一つである細胞のエネルギー代謝の仕組みを習得しておくとともに、植物の光合成の仕組みと光の強さによる光合成の反応について理解しておく必要がある。平均点は25点満点で20.2点(80.9%)であった。

## 一般選抜 英語(文学部・栄養科学科部)

### 1 出題の意図(形式・傾向)

基本出題構成は、【第Ⅰ問＝文法、文章意図読解、第Ⅱ問＝短い対話と長い会話の内容読解問題、第Ⅲ問＝図、グラフの読み取り、第Ⅳ問＝読解問題】である。第Ⅰ問では、文中への適語の補充、先行する一文を読んだ上での後続文の予測を出題した。第Ⅱ問では対面会話内容からそこに埋め込まれた心理を予測する問題

と、インターネット上での双方向応答問題を出題した。第Ⅲ問では統計資料の読み取りを出題した。第Ⅳ問は長文読解問題とした。

## 2 採点後の講評

### (ア) (文学部)

最高点は 97 点、最低点は 14 点、平均点は 59.7 点であった。

#### 〔Ⅰ〕

問 1 文中の空所に入れるべき適語を選択する問題である。(7) 以外すべての正答率が 50% を下回った。英語の慣用的な言い回しが出題されている。たとえば (2) では、自分に自信がある人間は「鼻高々」といったような言い回しについては、文章に表現されている状況を想像しながら、適切な語句を導き出して欲しい。

問 2 先行する文章を受け、その内容を咀嚼した上で、後続するのに適切な文脈を選択する問題である。(7) の正答率が高かった一方、(5) の正答率が低かった。世界的に著名なシェイクスピア「ハムレット」の一節であり、高校時代からこうした文学作品にも馴染んで欲しい。

#### 〔Ⅱ〕

問 1 会話の流れを理解し、会話内の特定の発言や行動の意味を読み取り、そこに出現する事態の真相を問う問題である。(8) の問題について 75%、他の 2 問については 50% の受験者が正答するという際立って正答率は高く、読み取りが良くできていた。

問 2 会話の流れから一方の話者の心情を推し量り、適切な回答を選択する問題である。本問についても正答率が高く、話者の心情をしっかりと読み取れていた。

問 3 英語による比較的長い会話における対話内容が理解できるかを問う問題である。この部分における正答率は全体的に高かった。特に、(14) の正答率は 93% であった。

問 4 インターネット上のソーシャルメディアでの対話文の理解を問う問題である。この部分における正答者の割合は 5 割強から 9 割程度であった。

#### 〔Ⅲ〕 グラフや表を読み取ることができるかを問う問題である。

問 1 アメリカにおける音楽市場の流行の変化をグラフから読み取る問題である。(23) の正答率が 68% ではあったものの、(22) の正答率は 84%、(24) の正答率は 78%、(25) の正答率は 71% と、総じて高かった。

問 2 世界の主要な美術館・博物館の訪館者数をグラフから読み取る問題である。(27) の正答率は 96% ときわめて高かったが、(26)、(28) と (29) の正答率は 40 ~ 50% 程度に留まった。(26) はグラフ全体の内容を理解しているかを問う問題、(28) と (29) はグラフの内容に基づく正誤判定問題である。文法知識や語彙力に加え、文脈を押さえる読解力も必要とされる。

〔Ⅳ〕 オリンピックの起源と歴史的発展、さらには近年の展開について説明した長文の読解問題である。昨年、文学部、栄養科学部の受験者ともに読解の問題には苦戦したようであったが、本年度の問題に関しては全体的に正答率が高く、(30) と (34) 以外すべての正答率は 60% 台となっており長文をしっかりと読み取れていた。

(イ) (栄養科学部)

最高点は96点、最低点は18点、平均点は58.8点であった。

〔Ⅰ〕

問1 文中の空所に入れるべき適語を選択する問題である。(4)の正答率が他に比べ顕著に低かった。

(4)の問題は、「うわさを肯定も否定もしない」という文脈であり、denyの適切な対義語を考えることが解法のポイントとなる。

問2 先行する文章を受け、その内容を咀嚼した上で、後続するのに適切な文脈を選択する問題である。

(7)の正答率が高かった一方、(5)と(6)の正答率が低かった。(5)は世界的に著名なシェイクスピア「ハムレット」の一節であり、高校時代からこうした文学作品にも馴染んで欲しい。

〔Ⅱ〕

問1 会話の流れを理解し、会話内の特定の発言や行動の意味を読み取り、そこに出現する事態の真相を問う問題である。いずれも正答率が50%から60%と高く、読み取りが良くできていた。

問2 会話の流れから一方の話者の心情を推し量り、適切な回答を選択する問題である。本問についても正答率が高く、話者の心情をしっかりと読み取れていた。特に、(11)と(13)については、7割を超える受験者が正答するという結果となった。

問3 英語による比較的長い会話における対話内容が理解できるかを問う問題である。この部分における正答率は全体的に高かった。特に、(14)については100%の受験者が正答した。

問4 インターネット上のソーシャルメディアでの対話文の理解を問う問題である。この部分における(18)の正答率が88%と高かった一方、(19)の正答率が34%と低かった。一緒にゲームをしたいというよりも、ゲームを紹介したいのだということを読み取って欲しい。

〔Ⅲ〕 グラフや表を読み取ることができるかを問う問題である。

問1 アメリカにおける音楽市場の流行の変化をグラフから読み取る問題である。(23)の正答率が53%ではあったものの、(22)の正答率は75%、(24)の正答率は81%、(25)の正答率は78%と、総じて高かった。

問2 世界の主要な美術館・博物館の訪館者数をグラフから読み取る問題である。(27)の正答率は100%ときわめて高かったが、(26)、(28)と(29)の正答率は40～50%程度に留まった。(26)はグラフ全体の内容を理解しているかを問う問題、(28)と(29)はグラフの内容に基づく正誤判定問題である。文法知識や語彙力に加え、文脈を押さえる読解力も必要とされる。

〔Ⅳ〕 オリンピックの起源と歴史的発展、さらには近年の展開について説明した長文の読解問題である。昨年、文学部、栄養科学部の受験者ともに読解の問題には苦戦したようであったが、本年度の問題に関しては全体的に正答率が高かった。(30)以外正答率は44%から78%となっており長文をしっかりと読み取れていた。(30)の正答率が19%と低かった。「世界的なパンデミックにもかかわらず、このイベントは重要である」という筆者の意図を読み取って欲しい。

## 令和7年度 盛岡大学学校推薦型選抜 小論文（文学部）

次の文章は、かつて中学校教員であった筆者が、ある中学校の卒業式をめぐる攻防を描いたものである。この文章を読み、あとの問に答えなさい。

「茶髪＝中学生らしくない」も広く社会全般に行き渡っている規範である。卒業式というフォーマルな場に染髪した生徒が入っていることに対して、多くの保護者や地域の人々はよい印象を抱かない。そのような生徒が入場している卒業式に対して人々は嫌悪感を抱き、その思いは校長に伝えられることになる。次は、当時の校長にこの卒業式のことを振り返ってもらったときの談話である。

筆者：今年も保護者の方からそのことについて話がありましたか？

校長：今年はなかったよ。でも去年はようけあったわ。「やっぱり、あんないまんにゃなあ」とかな。「たいへんやる。あんな卒業式に出さんときいな」とかな。

茶髪の生徒が入場していたということで、前年度には多くの非難の声が寄せられたことが語られている。保護者も地域の人々も、生徒が中学生らしい服装や頭髪をしていることを望んでおり、そのような状態を保つように生徒を指導することを、学校・教師に期待している。そして、それが達成できていないときは、学校・教師は非難の対象とされ、当該生徒の排除を求める声が学校に寄せられることもある。

従って、卒業式に茶髪の生徒を入場させるかどうかは、校長にとっては苦渋の選択となる。一般的には、染髪したままではたとえ3年生であっても卒業式への入場を認めない学校が多い。それは、地域からの信頼に応えるためではある。しかし、当時のA校の校長は違っていた。3年生は卒業式の主人公なのであるから、たとえ生徒がどのような身なりをしていようとも卒業式には出席させるべきだというのがこの校長の信念であった。真剣に生徒と向き合い、ぎりぎりまで指導してもどうしても頭髪を元の色に戻せない生徒については、それがこの学校とその生徒のありのままの姿なのであるから、何も隠す必要はなく、堂々とありのままを見てもらえばよいというのが、その校長の考えであった。A中学校は、昨年度から(1)この校長に変わっており、昨年度の卒業式から茶髪の生徒が結果的に卒業式に入場することになったのだが、昨年度の卒業式では式後に地域の代表である来賓から多くのクレームの声が寄せられたということが語られていたのである。

それから数年後、(2)次の校長の代になってからのできごとである。卒業式が終わった直後に、ある卒業生の保護者が、当該学年の学年主任に対して、激怒して詰め寄っている場面に遭遇した。まだ、ほとんどの卒業生と保護者が式場周辺にいる状況の中でのことであった。何を怒っているのかと話をよく聞いてみると、式に参列していた卒業生(3年生)の中に頭髪に少し茶色い部分が残っている生徒が混じっていたというのであった。実はこの母親の子どもも卒業式間近まで染髪をしていたが、担任教員から、黒染めをしないと式に参列させないと言われたので、抵抗する子どもをなんとか説得して黒染めさせたというのである。にもかかわらず、きっちりと黒染めができていない生徒が入場していたということは、この母親からしてみれば、学校の自分への裏切り行為だということである。子どもに合わせる顔がないと、この母親は激怒していたのであった。

その頃からしばらくの間、A中学校の卒業式は開式が予定時間より30分ほど遅れることが多くなった。それは、茶髪生徒の指導を式の予定開始時刻が過ぎても粘り強く行っていたからなのだが、あえて式の開始時間を遅らせることで、最終的に完全に黒染めができていない状態の生徒を入場させることになったとしても、学校がそれを簡単に許したわけではなく、やむにやまれずこのような結果に至ったと言うことを暗にほめかすことができる効果が期待されていたからでもあった。

出典：原田 琢也「ブラック校則」が生み出されるメカニズムに関する一考察：学校内部の視点から 金城学院大学論集、社会科学編19(1),26-45,2022-09-30

問1. 下線部(1)の校長と(2)の校長の方針について、それぞれ100字以内でまとめなさい。

問2. この文章について、あなたの意見を、論点を明らかにした上で400字以上500字以内で書きなさい。

## 令和7年度 盛岡大学学校推薦型選抜 小論文 (栄養科学部)

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

十分に体を動かし身体活動量を高めることは、生活習慣病の予防のほか、社会生活機能の維持及び向上ならびに生活の質の向上の観点から重要です。日常生活の中で身体活動量を増やす簡単な手段は、歩くこと、つまり、日常生活における歩数を増やすよう心掛けることです。身体活動量と死亡率などとの関連をみた研究の結果から、成人では「1日8,000～10,000歩」の歩数を確保することが理想と考えられています。そのようなことから、わが国の健康政策である「健康日本21(第三次)」では、「日常生活における歩数の増加」を目標項目として掲げ、様々な取り組みを全国的に行っています。その具体的な目標値は20歳～64歳で8,000歩ですが、令和元年の状況を見ると、成人総数で6,278歩となっており、岩手県においても全国と同様の傾向がみられます。

問 問題文および次ページの図表の両方を根拠に、400字以上500字以内で、「どのようなことをすれば」、岩手県民の日常生活における歩数を増やすことができるか、「日常生活における歩数が少ない理由」を考察して挙げたうえで、あなたの考えを書きなさい。

表. 国および岩手県の日常生活における目標歩数(令和4年)

単位: 歩/日

	男性	女性	全体
	20～64歳	20～64歳	
国	8,000	8,000	7,100
岩手県	8,000	7,000	—

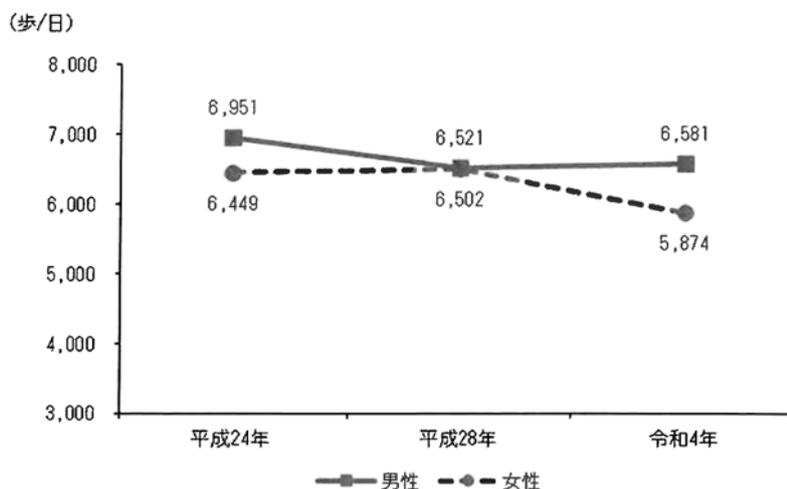


図. 岩手県における一日の平均歩数の推移 (20～64歳)

出典)

厚生労働省: 健康日本21(第三次)の推進のための説明資料(その1)一部改変  
<https://www.mhlw.go.jp/content/001234702.pdf> (2024年6月29日アクセス)

岩手県: 健康いわて21プラン(第3次)

[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page/\\_001/072/611/iwate\\_health21plan3rd.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/072/611/iwate_health21plan3rd.pdf) (2024年6月29日アクセス)

## 令和七年度 盛岡大学総合型選抜（併願制） 小論文（文学部）

【課題文】と【図】を踏まえ、後の問に答えなさい。

### 【課題文1】

「最近の若者はすぐ辞める……」という声は、あちこちから聞こえてきます。悩んでいたのなら、なんで一言相談してくれないんだ……。職場の若者が去っていくたびに、そんな想いに駆られる方も少なくないでしょう。

また、昔の人はもっと我慢していた、ゆとり世代の若者はこらえ性がない、時代が変わったな、などと嘆く方もいらっしゃるでしょう。

実際はどのようなのでしょうか？

よく新卒は、3年で3割辞めると言われます。厚生労働省の「新規卒卒者の離職状況」によると、平成27年3月のスクエアは31.8%（大学新規卒業者の3年後離職率）。30年前からのデータを見てみても、バブル崩壊の翌年、平成4年が最も離職率が低く（23.7%）、逆に最も高いのは平成16年の36.6%という結果に。いずれにしても、3割前後で推移していることに変わりはありません。

つまり3年で3割辞めるのは30年前からほとんど変わらない傾向なのです。それでは、なぜ、こうも「最近の若者はすぐ辞める」と言われるのでしょうか。

ここでひとつ、退職に関するデータを紹介します。これは、転職経験者に対して、職場に退職理由を伝えたタイミングを尋ねたアンケート調査の結果です。

25歳以下の場合、4割近い人が退職理由を伝えるのは「退職を決めたタイミング」だと回答しています。つまり、退職を心に決めてから、理由とともに職場に伝えているということです。

（中略）

若者は「辞めます」と切り出すずっと前から悩み、転職活動を始めます。そしてこのご時世、今より（スペック上で）よい（と思われる）次の職場が見つかります。その段階で職場に打ち明けるわけです。辞めます宣言が出てしまつたら、すべてはもう後の祭り。考え直してくれることは、ほとんど望めません。

「先月まであんなに頑張っていたアイツがなんで急に……」

管理職サイドからすれば、「突然」に「いなくなつたら痛い。若者が辞めてしまうわけです。そのため離職率の数字以上に大きなダメージを感じるのかもしれない。

また、最近離職問題だけでなく、えー？ と驚くような、突発的な「事件」が職場にはあふれています。そしてその大半が若者がらみだつたりします。

例えば、「急に職場に行けなくなつてしまつた」という休職。「先週の面談では、全然元気で大丈夫だと言っていたのに……」などと突然発生するのが、よくあるパターンです。

（中略）

私も、若手の部下を抱えるオトナ世代の一人です。これまで30年以上、求人メディアや採用コンサルティングの仕事に携わり、職場の若者について研究を重ねてきました。大学生や、企業の若手社員と接する機会が多々あり、若者たちの「こういう職場で働きたい」という声を、誰よりも多く耳にしています。今回、本書の執筆にあつても、アルバイトをする学生や若手社員から実際に話を聞いて、彼らの状況や心情をリサーチしました。

若者たちの話から雑美に見えてくるのは、彼らもまた年の離れた先輩や上司に対して、「なんだ、この人？」「やつてらんねー」と絶望している現実です。

ただ、彼らはそうした本音はなかなか口にしません。もちろん、上司や先輩にズケズケと文句を言うわけにはいきませんが、腹の中では「どうせ、話したつてムダ」と思っているからです。

ですから、私たちの目には彼らが「よくわからない人たち」に映つてしまいます。そして、いつの間にか不満を募らせ、やつと相談に来たかと思えば「辞めます」と言う。こうしてオトナたちの苦悩は、なおさら深くなつていきます。

オトナがよかれと思つて言つたりやつたりしていることが、若者たちには「やつてらんねー」になつてしまう、この不幸な現状。職場では、オトナの若者に対する「なぜ？」「どうして？」があふれています。オトナには、彼らの心の中がさっぱりわかりません。

### 【課題文2】「メール送付のリマインド」問題

生活用品メーカーの営業部。

浜野課長（男性・44歳）は、屋の休憩から戻つた入社2年目の中島くん（男性・24歳）に声をかけた。お客様から依頼された注文内容の変更の件についてメールで報告があつたが、口頭での報告がなかつたからだ。

「中島、ちょっといい？ あのさ、大事な事はメールだけで済ませないほうがいいよ。申し訳ないんだけどさ、俺には1日に何十通もメールが届くんだよね。もし埋もれちゃってたらさ、お客様にも大きな迷惑をかけることになるでしょ？ メールを送ったら一声かける。そのほうが丁寧だし、後でトラブルにもならなくて済む。受け手の立場になつて想像力を働かせてみてほしい。たかがメールと思うかもしれないけど、こういうのつて一事が万事だからさ」

中島くんは、「申し訳ありません」と謝ったが、いまいち納得していない表情だった。

このケースでの両者の言い分は、こうなります。

#### 浜野課長の言い分

最近の若いやつは、丁寧なコミュニケーションができないんだよね。こういうホスピタリティ(注)が発揮できてこそ、一人前のビジネスマンだつていうのを、教え続けなきゃいけないんだろうな……。

「メールを送つたので確認してください」と念押ししておくことは、仕事を円滑に進めるうえで大事なプロセスだ。社内コミュニケーションだけじゃない。お客様との関係性構築にも役立つ気配りだ。

だいたい、メールを一方的に送つておいて何もフォローしないなんて失礼だろ。何か問題があつたときに「メール見てなかつたんですか？」なんて相手のせいにするわけない。

#### 中島くんの言い分

一声かけなかつたほうが悪いつていうなら、メールを送る意味なくね？

確実に一度で伝わつて、ちゃんと履歴も残るからメールがいいわけでしょ。それに浜野さんが席にいないことだつて多いし、報告が遅くなつたら今度は「遅い！」つて怒るじゃんか。

そもそも、なんで見落とす前提になつてるわけ？ 「俺は見落とすんだ！」つて、自分は能力がないつてそんなに偉そうに言うこと？ 仕事のメールなんだから見落とすしちやダメでしょ。俺が浜野さんのメールを見てませんでした」とか言つたら絶対怒るよね。

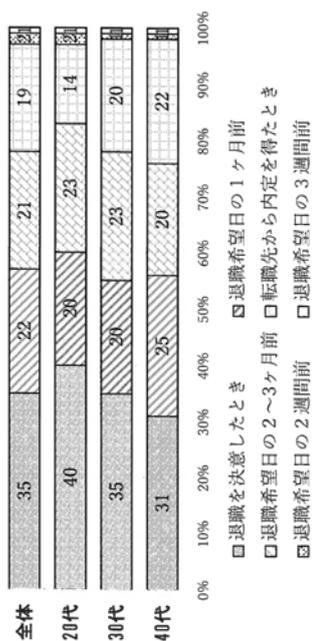
いかがでしょうか。もちろん浜野課長もメールを軽んじているわけではありません。メールに口頭報告をプラスしてほしいと言っているわけです。しかし、中島くんの主張も正論ではないでしょうか。

(注) ホスピタリティ サービス精神

(平賀充記『なぜ最近の若者は突然辞めるのか』株式会社アスコム、二〇一九年による)

【図】

### 退職を申し出たタイミング(%)



出典 エン・ジャパン株式会社ホームページから出題者作成。

URL : <https://corp.en-japan.com/newsrelease/2019/19432.html>

(最終閲覧日：2024年8月5日)

問一 【課題文1】を、一五〇字以上、二五〇字以内で要約しなさい。

問二 【課題文1】・【課題文2】と【図】を踏まえ、近年の若者の退職申し出が突然であることについて、世代間ギャップを考慮に入れて、あなたの考えを四〇〇字以上五〇〇字内で述べなさい。

令和七年度 盛岡大学一般選抜 試験問題 国語 (文学部)

〔一〕 次の文章は町田そのこの小説『夜明けのはさま』の一節である。真奈は芥子実庵という葬儀会社で働いているが、家族や恋人の純也は真奈の仕事をよく思っていない。ある日、真奈は母が病気で知らされ、母の元を訪れる。以下は、それに続く場面である。これを読んで、後の設問に答えなさい。

姉から連絡を貰って五日後、休日だったわたしは実家を訪ねた。前に文句を言われたチョコレートアイスではなくレモンシャーベットをテミヤゲにしたが、茜愛ちゃんは幼稚園に通い始めていて、家には姉と母しかいなかった。

「あー、ええと、これ」

シャーベット入りの保冷バッグを姉に渡し、母を窺う。年始に会ったときよりも頬がこけていた。

「あ、お母さん、わたし」

〔辛気臭い顔、しないでちょうだい〕

ソファに身を沈めた母は、顔を曇らせてみせる。

「いまずぐ死ぬわけじゃないんだから。あとねえ、愛奈がいろいろ言ったらしいけど、あたしは真奈に頼るつもりはないのよ」

「ちよっとお母さんー」

冷凍庫にシャーベットを仕舞っていた姉が声を荒らげるが、母は「愛奈の気持ちは嬉しいけど、心配しすぎ。真奈に頼るくらいなら、自分のことは自分でやる。通院だって、ひとりで大丈夫よ」と不満げに鼻を鳴らした。

「いつかは真奈にも手を貸してもらいたいこともあるかもしれない。でも、それはまだまだ先だとあたしは思ってるし、できれば貸してもらいたくない。真奈は真奈の人生があるでしょ」

「それは！ わたしが独身だからでしょ!」

かたとして声を大きくすると、母は「そうよ。」と平然と言った。

「ひとりきりで誰かの命を支えるって、簡単じゃないよ」

「そうかもしれないけど、でもわたしたって」

「あたしはいままで、お父さんがいれば、お父さんがここにいれば、って何度もそう思って生きてきた」

母に言葉を遮られ、はっとする。母はそんなわたしを見たまま続ける。

「お父さんのお陰で、ある程度のお金はあつた。あたしも働いていたし、生活にコンキョウすることはなかった。でも、お金だけじゃないでしょ。小学生だった愛奈がいじめに遭って学校なんて辞めてやるって泣き喚いたとき、中学生だった真奈が部活中に倒れて病院に運ばれたって聞いたとき。不安を自分ひとりで抱えないといけなくて、でも簡単には抱えきれなくて苦しかった。眠れない夜はたくさんあつたし、胃薬を飲んで働いた日は教え切れない。ここにお父さんがいたら半分背負ってくれたのになつて、しょつちゅう思ってた。ひとりで頑張るしかない辛さは、あたしは誰より知ってるの」

わたしは座ることもできず、立ち尽くしていた。母がこんな風に辛さを口にしたのは、初めてだった。母はいつも、なんてことない顔をしてわたしたち姉妹の前にいた。

「真奈が結婚して、真奈を任せられる旦那さんが傍にいたらと思えば、あたしも甘えられるかもしれない。愛奈にしているみたいに、寄りかかせてもらってもいい。でも、ひとりのあなたには頼りたくない。それは、歯を食いしばって頑張ってきた過去のあたしが止めて』と言うからよ」

何も、言えなかった。何が言えるだろう。どんな言葉を重ねても、わたしの言葉は母の覚悟より薄くて軽い。母の気持ちを覆せるものじゃない。

その場へたり込む。カーベットはアンパンマン柄で、ドキンちゃんがわたしにウィンクしていた。ドキンちゃんの隣の青いキャラクターの名前は、知らない。

「ごめん」

小さく、言葉を響かした。わたしはあまりに、親の気持ちを理解していなかった。

「ごめんね、お母さん」

「別に、謝ってもらおうことじゃないわよ」

ふん、と母が鼻を鳴らす。

「言っておくけど、だから早く結婚してちょうだいっていう意味じゃないから、急かされていると勘違いしないで。焦って結婚したって、失敗するのがオチよ」

麦茶を入れたグラスを持ってきた姉が「嘩はつか。結婚してくれたら安心なんだけどなあって、しょっちゅう言ってるじゃん」とツッコミを入れる。

「最近はずっと気が弱たつたくせに、真奈が来ると意地張っちゃうってさ」

「愛奈、余計なこと言わないで」

母が姉を軽く睨みつけて、それからわたしに「急いで結婚してほしいわけじゃないっていうのは、ほんとうだからね。あなたのいまの生活が満たされてるなら、それを覚えることはない。妥協しないで」と念を押す。

「あなたは昔から、ひとのことを気にして自分の大切なことを捨てちゃうところ、あつたでしょ。あたしはこんな性格で、嫌なことは嫌って言うけどさ、あたしが嫌だからって我慢したり、捨てちゃったりすることないのよ。結婚だけじゃなく、仕事もね」

「え」

驚いて、声をあげる。

「だって、嫌だって」

「嫌だから、嫌とは言う。辞めてほしいとも言うわよ。あたしは嫌だもん。でも、あたしが言ったからって、真に受けて辞めなくてもいいんだよ。やりがいがある仕事だって自分が感ずてるなら、働き続ければいい。あたしのことなんて、気にせず」

そんなこと、言われたことがなかった。しかし、わたしの傍に座り込んでグラスに口をつけた姉も「きちんと言っておくしかないかもね」と相槌を入れた。

「真奈ってばか正直なところあるもんね。真面目すぎだし、おまけに妙なところが弱い」

「待つて、お姉ちゃんそれどういうこと」

「あなたは昔からそうでしょ。文句言いながら、最後は気を遣って相手に従う。それで、ひとりでこそそ悔やむのよ。あれはほんとうは諦めなくなかった、妥協しなくなかった、とかって」

例えば、と姉が指を折る。ほんとうはバレーの強豪校に行きたがってたせに、お金のかかる私立だからって勝手に諦めたでしょ。東京の大学に行きたかったのに、生活費がかかるからって地元の大学にした。あと、あたしの結婚式のとき。なつめちゃんたちにロックなパンツスーツを選んでもらったのに、ブライズメイドが足りないってあたしが喚いたら黙ってピンクドレス着てくれたよね。母は、そのいちいちに頷いた。

「……何、それ。そんなこと」

「そんなこと、あるでしょ。愛奈の言う通りでしょ？ ドレスはさておいて、学費や生活費は頑張れば出せないことはなかったよ。でもあたしが何度そう言っても、あなたは勝手に進路を決めたでしょ」

母がくすりと笑う。

「親孝行なのは嬉しかったけど、でも親としては見くびられた感じがして嫌だったかな」

姉がわたしの前に置いたグラスを取り、一息に呷る。息を吐いて「ちよと待つてよ。どうしていまさら言うの」と母と姉を交互に見た。ふたりがわたしのことをそんな風に見ていたなんて、知らなかった。

「どうしてそんな……そんな大事なこと、いま言うの」

ふたりは同時に肩を竦め「そういう家族だから、じゃない？」と軽く言った。

「うちって、何でも言いあえるカキネのないオープン家族、って感じじゃなかったもんね」

「友達親子っていらの？ あたし、そういうの苦手だしね。子どもといつでも何でもべぐら喋れるかって話」

ねえ、と母と姉が顔を見合わせ、それから母が「だから」といって、不仲ってわけじゃなかったでしょ。ほどよい距離感で、文

何を言いいながらも互いを大事にしてきた。ときどき、こういふ話をする。そういう家族でしょ」とわたしに向かって言う。それに、姉が「そうそう」と頷く。その様子を見て、ああそういえば、わたしはかつてこの三人の中で一番の甘っただらだった、と思出す。少しだけ、泣きそうになる。ひとりで勝手に、姉よりも母よりも強い大人になった気がしていたけれど、わたしはいまでも、ふたりにとって頼りない末娘なのだ。

「……わたしね、お母さんは嫌かもしれないけど、お金のためにもいまの仕事続けるから納得してね、って言いに来た。ほんとは」

転職したって、いま以上の条件の会社に入れるとは限らない。どれだけ嫌がられても働き続ける、そう決めてここに来たのだった。

「親の具合が悪いときでも仕事辞めないのかって、嘘になるかもって思ってた」

母は「やだわ、ばかな子ねえ」と片手を振って笑う。

「お金のことなんて気にしないでいいよ。あたしの考えや好みなんて無視して、いままで通り辛気臭い仕事しなさいよ」

「え。あたしはお金いる。ていうか、不器用な真奈が急に転職なんてできるはずないって普通に思ってたけど？ あんたみたいな頭の固い女、どこが採用してくれんの」

普段ならムツとするところなのに、何故だか泣けたのはふたりの言葉の裏のほんとうの気持ちを知ったからだろう。

「……ごめん。去年お姉ちゃんに家のリフォーム代増やしてって言われたとき、心の中でお母さんとお姉ちゃんの悪口死ぬほど言った」

こみあげてくるものを堪えて言うと、姉は「分かってたわ、そんなこと」とわたしの背中をバチンと叩いた。

「でもあのとき、あたしが頼んだ以上のお金くれたから、それでチャラね」

「あ、お母さんは、そのチャラは嫌、夕飯にお寿司とって」

「……並しか取らないから」

目元が熱い。顔を輝めてみせると、ふたりは「結局頼んでくれるんだよね」と声を重ねて笑った。

母と姉家族と夕飯を共にし、実家を出た。夜空には星が瞬いて、やけに澄んで見える。明日は曇つという天気になるだろう。

心は不思議と風いでいた。

母の病は消えてなくならないし、これから手術や抗がん剤治療が待っている。状況は変わらない。母が何と言おうと、わたしは娘としてこれから治療費の援助をしていきたい。そのためには、働かなきゃいけない。

「別れるって、言わなきゃ」

空を見上げて、声に出して呟いた。

芥子実産でなら、しっかりと働ける。家族の反対も、ほんとうの反対じゃないと知ったから、いままで以上に頑張れる気がする。しかしそうなれば、純也とは別れるしかない。己の仕事がどれだけ彼を苦しめているか、知っているから。

心が揺らぐ前に、話してしまおう。

スマホを取り出して、コールする。数コールで純也が出た。

『もしもし、真奈？』

耳にやさしく響く声はあまりに馴染んでいる。失うと分かっているからなのか、ああ好きだなあと思った。声すら、愛おしかったんだ。

「もしもし。あのね、この間の話の返事をしようと思って」

情けなく、声が裏返った。こぼんと咳をして誤魔化す。でも、彼はきつとそれだけでわたしの伝えたいことが分かったのだろう。小さく息を吸う気配がして『どうぞ』と言った。

「わたし、仕事辞めない」

お腹に力を入れる。

「純也が嫌いなわけじゃない。仕事と純也を比べて、純也が劣つてると決めたわけでもない。母が、ガンなの。子宮ガンか

ら、他にも転移してるって」

泣かないように、声を震わせないように話す。母を支えたいこと。そのためにはいまの仕事続けるべきだと考えたこと。そして、わたしはわたしの力で、母を支えたいこと。

『そういう、こと。おれは、真奈の気持ちちは分かるよ。病気の親を支えたいって気持ちは、ひとより分かるつもりだ。でも、そういう事情ならなおさら、おれは真奈と結婚したい。真奈と一緒に、真奈のお母さんの闘病を応援したい。おれには、それができるだけ力はある。支えさせてくれよ』

熱っぽい言葉が、涙を誘う。とても素敵なひとと付き合っていたのだと思う。わたしが好きなひとは、やさしくて、かっこいい。

でも、だからこそ、領けない。

「いま結婚すると、わたしたちの関係が変わってしまう」

もし、純也と結婚したら。

考えまいとしたけれど、それでもふとした拍子にだられはを想像してしまう自分がいた。純也はきつと頼りがいのあるよい夫となつて、わたしを支えてくれるだろう。わたしの哀しみや苦しみに寄り添い繕ってくれるだろう。芥子実庵を辞めたわたしは時間を自由に使える仕事に就いて、あるいは専業主婦になつて、母のことを姉と負担しあえる。母の傍にだつてもっとたくさんいられる。

でも、そんな身勝手なことでは彼と結婚したくない。いまのわたしは純也への愛情とか尊敬の念といったものではなく、彼との結婚で手に入れられるメリットに目が眩んでいるだけなのだ。

好きなひとを、自分が乗になる手段にしたくない。

「わたしね、純也と結婚するメリットを無意識に数えてるんだよ。対等でありたいと考え続けてたのに、それをすつと主張し続けていたのに、状況が変わつた途端、純也に支えてもらえればと考えてしまった。情けないよ。こんなことしか考えられないんだつたら、脳の機能、ストップさせたいよ」

涙が滲む。これは、愚かな己に対する嫌悪の涙だ。

男女が平等？ 対等であるべき？ わたしの仕事は誰と比べて劣っているものではない？ そんなきれいなことを並べていたくせに、いざとなれば純也に縋つて生きていくことを考えた。

「純也に呆れられたくないんだ、わたし。利用したくない。だから、結婚できない」

『おれは、利用されてもいいよ。メリットがあるなら、それでいいじゃないか』

純也の声が、焦っている。利用すればいい。おれだつて、真奈を利用することだつてあるかもしれない。そのときは、お互い様だつて受け入れてよ。それで、いいじゃないか。

「よくない。領けは、わたしはいつかわたし自身を許せなくなる」

『助けさせてくれよ』

悲痛な声に、胸が痛む。でも、領けない。領いてはいけなかつと思う。

「ごめん、なさい」

『……電話でだつて、うまく話せない。明日、時間をくれよ。仕事のあと、ううん、昼休みでもいい。おれ、明日芥子実庵の近くまで行く。だから』

普段は冷静な純也が、必死に言葉を重ねる。その気持ちが愛しく嬉しいような、これ以上苦しめないでと恨んでしまうような、相反する感情がないまぜになる。もう、うまく喋れなくて、「明日、十三時に近くの公園に」とだけ言つて、通話を切つた。

翌日起きたわたしの顔は酷い有様だつた。家に帰つてからぼろぼろと涙が溢れたものの、何の涙なのか最後まで分からなかつた。

施行は幸いにも入つておらず、わたしは朝から祭壇を丁寧に磨き上げた。掃除に熱中していたら、考えなくてはいけないことを考えなくてすむ。祭壇のあとは仏具を磨く。ひたすら、磨き続ける。途中、様子を覗きにきた井原さんが「新品の輝きになつ

てんな」と笑った。

「ちよつと、外に休憩出てきます」

約束の時間になって、芥子実庵を出た。十分ほど歩いて小さな公園に行くと、ベンチにはすでに純也が座っていた。

「正」

何事もなかったかのように、笑顔で片手を挙げてくる。わたしも「や」と返して、隣に座った。

「これ、買ってきた。あつたかいうちに食おう」

差し出された紙袋の中に入っていたのは、わたしが好きなクリーム入りの大判焼きだった。

「ていうか、もつとがつりしたのがよかったかな？ じゅめん、ちよつと冷静しやなかったかも」

申し訳なさそうに頭を掻く純也に「ううん、わたしもこんなのしか買ってこなくて」とペットボトルのお茶を二本出す。それからしばらく、ふたり並んで大判焼きを齧った。

どちらも、喋らなかつた。もくもくと胃に大判焼きを収めていく。ベビーカーを押して歩く若い女性が、わたしたちの前をゆつくりと通り過ぎていった。

四個あつた大判焼きをふたつずつ食べ、お茶を飲む。空を仰くと、雲ひとつない快晴だった。春の終わりの甘い風が、葉桜を撫でていく。

「結婚、しませんか」

同じように空を仰いでいた純也が言った。真奈と一緒に、生きていきたいんだ。

同じ空を見上げたままだったわたしは、その言葉を何度も繰り返して見る。それから、このひとのいいところをまたひとつ知つたなあ、と思つた。

純也はもつといるんなことを言いたいはずで、でもほんとうに大事な言葉だけを伝えてくれた。そこだけが、わたしたちに必要なのだというように。そんなやさしさを持つたひとだった。

「わたしは」

言いかけて、口を噤む。受け入れられない、そう口にするつもりだったのに、その一言がどうしても言えない。ここまで寄り添おうとしてくれているのに、何を噤みになっているのだろう。よろしく願ひします、そう言つたって、いいんじゃないの。後悔する未来なんてなくて、あのとき受け入れてよかったと胸を撫でおろす未来があるんじゃないの。

「わたしは」

そのとき、スマホが震えた。ああ、こんなときに邪魔をするのは誰。無視をしたけれどスマホは震え続ける。やつと切れたかと思えば、また震えだす。

「ごめん、仕事先だと思つた」

施行が入つたのだろう。今回はわたしの番ではないけれど、急ぎでお迎えにいかねばいけないとか？ スマホを取り出すと、案の定、着信は全部芥子実庵からだつた。留守電が入つているので、まずそれを聞こうと耳にあてる。芥川さんの声がした。

『休憩中、申し訳ない。柳沢さんが亡くなりました』

頭の中が真っ白になつた。柳沢さん。やなぎの、大将？ 二日前、芥子実庵に遊びに来たけど。いつもの、ちよつきも食べていた大判焼きを、買ってきてくれた。クリームが三つもあつて、芥子実庵のメンバーでクリームを食べるのはわたしだけだから、みんなが「貰ったー」って柳沢さんを買めた。

『だつて佐久間ちゃんはずー、娘みたいなもんだもんよう。仕方ねえじゃん』

へっく、と悪びれず笑つて、だからわたしはごうそう。お父さんみたいなもんですもん』と三つをべろりと食べた。

茫然としていると、メッセージが届く音がして、見れば芥川さんからだつた。明け方に脳梗塞が起きて、誰にも気づかれないまま亡くなつてしまつたらしい。朝食の席に現れないことを認しんだ、息子の宗助さんが部屋を訪ねて、冷たくなつていゝのを発見した。

「ああ」

思わず、声<sup>が</sup>が<sup>け</sup>られる。柳沢さんは、奥様に先立たれてひとり暮らしだった。とはいっても同じ敷地内に宗助さん夫婦が住んでいて、店でもいつも一緒だから安心だ、と言っていたけれど、最悪のタイミングだ。

『オレの最後は、任せなぞ』

何度となく言われた、柳沢さんからの言葉。わたしはそれに、毎回頷いて答えた。大事な最後でもん、任せてください。

ああ、行かなくては。

「あの、ごめん。その、戻らなきや」

立ち上がりかけて、はっとする。わたしはいま、プロボットの返事をするところだった。

純也が、わたしを見る。その目には怒りにも似た熱があった。

「おれは、真奈の家族ごと、支えられるようになりたいと思ってる」

微かに声を震わせて、純也が言う。

「一緒に生きていくというのは、メリットデメリットで片付ける問題じゃない。おれが真奈を支えることもあれば、その逆もきつとある。支え合って、一緒に生きていきたいと思つたから、こうしておれはここに来た」

声が出ず、ただ、頷く。

「おれの唯一の願いは、いまの仕事を辞めてくれ、それだけだ。おれと結婚する意思があるのなら、今日、このままおれと帰ってほしい」

純也が、手を差し出した。二回目に会つたときにしつと見つめた、節の大きな指先が、びんと伸びている。

「仕事を放棄させてしまうこと、あとでいくらでも詫<sup>わ</sup>びる。会社に謝罪にだつて行く。だから、今日だけはおれの手を取つてほしい」

責任感の強い、真面目なひとだ。決して、こんな無茶を言うひとではない。

①  
「言わせてしまったのは、わたしだ。」

「……ごめんなさい。行く」

目を逸らすことはしなかった。

「その日が来たらちやんと見送るつて約束したひとなの。柳沢さんの人生最後の舞台を、わたしは整えてあげたい」

「いま行けば、おれはもう二度と真奈を追わない」

だんだんと、純也の目のふちが赤くなっていく。手を差し出してしまいそうになって、ぎゅつと拳に力を入れた。

「ごめん、なさい。わたし、ほんとは決めていたのかもしれない。純也と仕事、とつくに天<sup>てん</sup>柙<sup>けつ</sup>にかけていた気がする。心は、決まっていたんだと思う」

内臓がぎゅるりとうねる。心臓がやめてくれと叫ぶように跳ねる。でも、別れを告げるのなら、これでいいのだ。普人になつてどうする。何もかもを見せてくれたひとに、わたしは最後まで応えられないのだから。

「さよなら」

言つて、立ち上がる。そのまま、駆け出した。

別れるのを拒否しているように震える足を必死に動かして公園を出る。近くにあったバス停のベンチにどすんと座り、顔を覆った。

泣き喚きたい。いまずぐ戻つて、やっぱり一緒に帰ると言いたい。その数秒後には後悔すると分かっているくせに、それでももう一度。

何度も何度も深呼吸する。全身が震えて、嫌な汗がびつしよりと流れる。落ち着け、落ち着け、と繰り返す。

(注1) 己の仕事がどれだけ彼を苦しめているか、純也は幼い頃の体験から死を極端に恐れるようになり、真奈の仕事にも恐怖心を抱いている。

(注2) 施行 ここでは葬儀を執り行うこと。

問一 傍線部(ア)「アミヤダ」、(イ)「コンキユウ」、(ウ)「カキネ」、(エ)「隣」、(オ)「モ」の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に改めなさい。解答は(A)票。

問二 傍線部(1)「辛気臭い顔」、(2)「胸を撫でおろす未来」、(3)「訝しんだ」という表現の意味として、最も適当なものを、それぞれ①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は(B)票。

- |               |                                                                                                       |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 辛気臭い顔     | ① 苛 <sup>いら</sup> 立たせるような顔つき<br>② 申しわけなさそうな表情<br>③ 気持ちを暗くさせるような表情<br>④ 機嫌をうかがうような顔つき<br>⑤ 悪気のない無邪気な表情 |
| (2) 胸を撫でおろす未来 | ① わだかまりのない未来<br>② 幸せだと思える未来<br>③ 後ろめたさのない未来<br>④ ほっと安堵 <sup>あんぷ</sup> する未来<br>⑤ 自分を肯定できる未来            |
| (3) 訝しんだ      | ① 不審に思った<br>② 待ちかねた<br>③ 心配した<br>④ 腹立たしく思った<br>⑤ 不安に感じた                                               |

問三 傍線部(A)「あたしは真奈に頼るつもりはないのよ」とあるが、なぜ母はこのように言ったのか。その理由として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は(B)票。

- ① いくら自分が病气とはいえ、好きな仕事をして、恋人とも順調な付き合いをしている真奈に頼りたくはない。いま自分が頼ってしまうと、真奈の仕事や恋人との関係に悪影響を与えてしまうかもしれないから。
- ② 葬儀社で働く真奈の仕事に反対している以上、いくら病气とはいえ、真奈には意地でも頼りたくない。いま真奈に頼ってしまうと、自分が反対している仕事で得たお金で助けられることになるから。
- ③ 夫を早くに亡くし、ひとりで子育てをしながら仕事を続けてきた自分には、その大変さがよく分かる。親の病气のことは気にせず、真奈には仕事だけに集中してほしいから。
- ④ 夫がいないなかで、たったひとりでふたりの娘を育ててきた自分には、ひとりで頑張るしかない辛さが良く分かる。ひとり身の真奈に頼ってしまうと、真奈に自分と同じような思いをさせることになるから。
- ⑤ これまでも夫が残してくれたお金と自分の収入で生きてきたのだから、いくら病气とはいえ、真奈に頼りたくはない。まだ夫の遺産で治療費はまかなえるし、生活もやりくりできるから。

問四 傍線部(B)「ふたりの言葉の裏のほんとうの気持ちを知ったからだろう」とあるが、「ふたりの言葉の裏のほんとうの気持ち」に関する説明として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は(B)票。

- ① 真奈に対して、つい小言ばかりになってしまふ母と姉だが、実は真奈が仕事を続けられるか心配している。
- ② 真奈に対して、母も姉も意地の悪い言い方をしているが、実は真奈の仕事を続けたいという思いを尊重している。
- ③ 真奈に対して、いつも憎まれ口を叩いているが、本当は母も姉も真奈と純也の仲が続くように応援している。
- ④ 真奈に対して、母も姉も嫌みたっぷりの言い方をしているが、真奈に結婚して幸せになって欲しいと思っている。
- ⑤ 真奈に対して、母も姉もつい厳しい物言いになってしまふが、本当は真奈の職場での活躍に満足している。

問五 傍線部①でも、領けない。領いてはいけないと思う」とあるが、なぜ真奈はそう思うのか。その理由として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は(B)票。

- ① いまの仕事辞めて欲しいという純也の悲痛な思いに応えたい気持ちはある。仕事を辞めれば、時間を自由に使えるようになるし、病気の母を支えることもできる。しかし、それは仕事を辞めさせたという負い目を純也に抱かせることになり、将来的に純也を苦しめることになるから。
- ② 母の状況を考えれば、一刻も早く仕事を辞めて純也と結婚するべきである。純也も自分は利用されても良いと言ってくれている。しかし、いくら母の病気のためとはいえ、純也を利用して生きていくことは、男女は互いを尊重しあうべきだと考えてきたこれまでの自分を否定することになるから。
- ③ 純也との結婚は、母の病気のことを考えればメリットがある。純也はメリットのためでも良いから、結婚して欲しいと言ってくれている。しかし、いまその気持ちに甘えてしまえば、純也との関係は対等ではなくなり、いつか純也の気持ちに甘える選択をした自分を許せなくなるから。
- ④ 仕事を辞めて結婚して欲しいと言う純也の思いにいますぐにでも応えたい。自分が仕事を辞めれば、これ以上、純也を仕事のことで苦しめることもなくなる。しかし、結婚のためにキャリアを諦めるという選択をすれば、将来その選択をした自分を許せなくなるから。
- ⑤ 自分のことを助けたいと言ってくれている純也の気持ちはありがたい。お互い支え合って結婚生活を送れるのであれば、それに越したことはない。しかし、病気の母を抱えた自分と結婚すれば、純也は一方的に自分を支えることになり、それに対して自分はまったく支え返すことができないから。

問六 傍線部①と言わせてしまったのは、わたしだ」とあるが、このときの真奈に関する説明として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は(B)票。

- ① 葬儀会社の仕事は、他のどの仕事にも劣っていないという自信は以前からあった。しかし、これまで純也に、そのことを理解してもらおうと努めてこなかった。その結果として、葬儀会社の仕事を嫌う純也に、結婚がしたいなら今日は仕事を放棄して欲しいなどと言わせてしまったことに<sup>恨</sup>たる思いを抱いている。
- ② 純也と結婚をするか、いまの葬儀会社の仕事を続けるか、いずれ決めなくてはならないと思っていた。しかし、そのことを決められないまま、ここまで来てしまった。その結果、結局は結婚を選ぼうと純也に勘違いさせ、仕事を放棄して欲しいとまで言わせてしまったことを反省している。
- ③ いまの自分の仕事を辞めることなく、純也と結婚したいと希望していた。しかし、これまでその希望を口にすることはなかった。その結果、自分の希望は伝わらず、真面目な純也に、結婚したいなら目の前の仕事を放棄して欲しいとまで言わせてしまったことを申し訳ないと思っている。
- ④ いまの葬儀会社の仕事がいかに素晴らしいかということを純也に一方的に伝え続け、理解を求めてきた。しかし、それは自分の仕事を怖れている純也の気持ちをまったく尊重しないものであった。その結果、純也を怒らせ、ついには目の前の仕事を途中で放棄して欲しいとまで言わせてしまったことを後悔している。
- ⑤ 自分の心のどこかには、純也との結婚ではなく、仕事を取りたいという思いが以前からあった。しかし、そのことをはっきり伝えないまま、ここまで来てしまった。その結果として、責任感の強い純也に、結婚の意志があるなら目の前の仕事を放棄して欲しいとまで言わせてしまったことを悔やんでいる。

問七 作中人物に関する説明として、適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は〔B〕。

- ① 真奈の姉は、友達親子のようななんでもべらべら喋る関係を母と同様に苦手だと思っており、自分の娘の母愛ともそのような関係を築きたくないと思っていた。
- ② 真奈は、電話で純也が自分と結婚して欲しいと何度も懇願してくることに對して、呆れ果てるとともに、これ以上自分を苦しめないで欲しいと思った。
- ③ 純也は、自分に真奈や真奈の家族を支えるだけの財力があるということを証明すれば、真奈が快く結婚に納得してくれるものだと考えていた。
- ④ 柳沢さんは、自分にもしものことがあつたときは、頼りない自分の息子よりも、娘のように可愛がっている真奈に自分の葬儀のいっさいを任せたいと言っていた。
- ⑤ 真奈の母は、真奈が結婚してくれたら安心だと姉には話していたが、結婚を急いで欲しいとは考えておらず、真奈の生活が満たされているのなら、それを変えることはないと言った。

問八 本文は『夜明けのはなま』の最終章「握の砂」の一節であるが、この章のタイトルの元になった歌集『握の砂』の作者は誰か。次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は〔B〕。

- ① 与謝野晶子      ② 北原白秋      ③ 斎藤茂吉      ④ 石川啄木      ⑤ 若山牧水

二 (二)には(甲)・(乙)の問題がある。(甲)・(乙)のいずれかを選択し、解答しなさい。

(甲) 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

贈与について研究しようとする者がかならずそこに立ちもどる、いわば贈与研究の原点といえるのがフランスの社会学者マルセル・モースの『贈与論』である。一九二〇年代に発表されたこの論文が、その後の民族学・文化人類学の発展や、構造主義をはじめとするポスト・モダン<sup>(1)</sup>のチヨウリユウにおよぼした多大な影響についてはいまさらくり返すまでもなからうが、この『贈与論』のなかで、モースは贈与をめぐる義務として次の三つをあげた。

- 1 贈り物を与える義務(提供の義務)
- 2 それを受ける義務(受容の義務)
- 3 お返し<sup>(2)</sup>の義務(返礼の義務)

一方、モースがその存在に気づきながらも、『贈与論』では明確な位置づけを与えていなかったために、のちにゴドリエ・ゴドリエによって「第四の義務の忘却」と評された、もうひとつの義務がある。それが、

- 4 神々や神々を代表する人間へ贈与する義務(神にたいする贈与の義務)

である(ゴドリエ『贈与の謎』)。さきの三つの義務に、この「第四の義務」を加えた四つの義務を、以下考察を進めるうえでの出発点としよう。

贈与というものは、およそ人間の営む社会、文化にはつねにみられるもので、それは歴史上のあらゆる時代、あらゆる地域に、いわば時空を超えて見出されるものである。言語や貨幣と同様、その起源ははるか氷河の時代までさかのぼるといつてよからう。しかも贈与のあるところには――親子兄弟などごく近しい肉親間でおこなわれるばあいを除いて――たいていこれら四つの義務が付随している。もちろん日本を含めた現代先進諸国も例外ではないから、四つの義務をならべてみたとき、私たちは経験的にも「あまなるほど」と納得がゆくのではなからうか。

とりわけ日本は、先進諸国のなかでも例外的に贈答儀礼をよく保存している文化として、世界中の研究者から注目されてきた。しかもたんに保存しているだけでなく、バレンタインデーやホワイトデー等々のように、新たな贈答儀礼を次々と再生産しているという点でもきわめて特殊なポジションを占めている。

バレンタインデー以下の新しい贈答文化というのは、いわば企業戦略に乗せられるかたちで生まれたものだが、乗せられているとわかっていながら、いざ軌道に乗ってしまうともはやそれをやめることはできない。なぜそれをやめることができないのか、二〇世紀前半にモースが問うたのはまさにこの点であった。

私たちの身近にある贈答儀礼を数えあげてみると、たしかにかつてほどではないにしても、まだまだ多くの贈答儀礼が健在であることに気づかされるだろう。古くからおこなわれているものとしては、ほぼ年中行事化している中元やセイゴ<sup>(3)</sup>以外にも、結婚祝いや出産祝い、入学祝い、香典等々、人生の節目ごとにさまざまな祝儀・不祝儀がくり返される。比較的新しいものとしては、バレンタインギフトやホワイトデーギフトのほか、パースターギフトやクリスマスギフトもあげられよう。また、かならずしも有形の財や金銭を媒介とはしていないものの、年賀状やメールのやりとり、訪問や招待、その他食事への誘いなども明らかに贈答儀礼と同じ構造をもっている。まったく返事をくれない相手にせつせつと年賀状やメールを送りつづける奇特な人は少ないだろうし、食事に誘うのはいつも私のほうで、彼／彼女からは一度も誘われたことがないという関係が長続きするはずもない。要するに贈与の原理はここにも確実に作用しているのであり、そのかぎりにおいてこれらも広義の贈答に含めて考えることができる。

さて、これら日常におこなわれている贈答において、四つの義務はどのようにあらわれるだろうか。

このなかで私たちがもっとも意識する頻度の高いものは、たぶん「お返し<sup>(2)</sup>の義務」だろう。そもそも贈答という言葉自体が返礼(送)の存在を前提にしているわけだが、このようにそれを受け取った者にたいして返礼を義務づける贈与の性質を互酬性(Reciprocity)ともよぶ。贈(送)つたのにお返し(返事)がないと不快感を覚える、あるいは逆に贈(送)られたのにお返し(返事)を

しないでいるのは落ち着かない、そういった経験は誰しもあるにちがいない。そこには贈り物を一種の債務・負債と感ずる意識がある。もっと平たくいえば、贈り物を受け取るにより受贈者には「借り」ができ、贈与者には「貸し」ができるのである。モリスが「お返しの義務」とよんだのはまさしくこれであり、モリスの最大の関心事も、このような債務意識がどこから来るのか、ないしはどこから来ると解釈されていたのかを説明することにあつた。バレンタインデーにたいするお返しの機会として、ホワイトデーなるものがスムーズに定着したのも、男性の債務意識と女性の債権意識を巧妙に利用した結果であることはいうまでもあるまい。

次に「贈り物を受ける義務」はどうだろうか。これも最近の例をあげると、たとえば読者のなかにも、贈り物を贈ろうとして受け取ってもらえなかった寂しい経験の持ち主がいるかもしれない。逆に、贈られたけれど拒絶した、受け取らなかったというつれないことをした経験をもつ人もいるだろう。そのとき受け取らなかった理由とはどのようなものだったのだろうか。男女間のプレゼントや、あるいは贈与者が何ごとかを依頼するために物を贈ってきたケースなどを想定するとわかりやすいと思うが、贈り物を受け取らないということは贈与者の期待に応えられないことの意味表示にはかならない。要するに、贈り物の拒否は贈与者と特別な人間関係を築くことの拒否を意味したのである。これをさきほどの債務意識という観点から説明すればこうなる。

贈り物を受け取るにより、受贈者には贈与者にたいする「借り」ができる。贈与者は——ときに意識的に、ときに無意識に——その「貸し」を受贈者が自分と特別な人間関係を築いてくれることをもつて回収しようとする。受贈者は、その期待に応えてもよいと思えば素直に受け取るだろうし、期待に応えられないと思えば受け取らないか、かりに受け取ったとしてもその期待とは別の対価物でつまり贈与者にとっては期待はずれの返済をおこなうだろう。要するに、人は返済できる見込みのない「借り」をつくりたくはないのである。

近年急速に広がりつつある傾向として、公職にある者が利害関係者からの付け届けを受け付けないケースがある。たとえば担任教師が生徒の保護者からの付け届けを断るケースなどは今日かなり定着しているといえよう。そのさいには「公平性の観点から」「当然の職務だから」、あるいはたんに「こういうものは受け取らないことにしている」などの理由がつけられるのが普通だろうが、理由はどうあれ、これも特別な人間関係を築くことの拒否であることには変わりがない。

そのとき、贈与者がその理由に納得すれば問題はないが、納得しないばあいには将来に深いカゴンを残すこともある。贈り物を受け取ってもらえなかったときの気持ちは「寂しさ」から「恨み」「憎悪」まで、個々のケースによつても、またその人の性格によつても、かなりの振幅があるだろうが、歴史的にみるとそれはしばしば激しい敵意ともなり、ときには戦争の原因になることもありえたのである。

広義の贈答である訪問や招待のばあいも同様である。外交の場面では、相手国への抗議が首脳による招待の拒否や訪問のキャンセルとなつてあらわれることがあるのを、私たちはよく知っている。「贈り物を受ける義務」の意義は、これら「贈り物を受ける義務」が履行されなかったケースから逆に推しはかることができよう。個人と個人、あるいは集団と集団が良好な関係を構築・維持しようとするとき、「贈り物を受ける義務」はもつとも基本的なマナーとなつたのである。

ちなみに中世の日本では、贈り物の贈り方が決められた礼儀作法に則<sup>レ</sup>っていないという理由でも、しばしば受け取りが拒否されたことを付け加えておこう。ここには「礼」の秩序という、贈与をめぐるもうひとつのコンテクストが介在するが、この問題についてはのちにあらためて触れることにする。

「贈り物を与える義務」は、四つの義務のなかではややわかりにくいものかもしれない。たとえば、上司や得意先など、日ごろ世話になっている人に贈り物をするケースを考えてみよう。これは「贈り物を与える義務」ともいえるし、また上司や得意先の日ごろの恩顧を贈与ととらえれば「お返しの義務」といえなくもない。このように、「贈り物を与える義務」には「お返しの義務」との区別がむずかしいケースがままあるのだ。

一方、これと似て非なるケースとして、すでに世話になっている人ではなく、まだ世話にはなっていないが、これから世話になる人、世話になることが確実な人にたいしても付け届けがなされることもある(それはあるばあいは賄賂となる)。このケースではさきほどのような「お返しの義務」との紛らわしさはなく、より純粋な贈り物を与える義務が抽出されることになるろう。

では、この種の贈与を強いるメカニズムとはどのようなものであろうか。モリスもいのように、これらは表面的にはヴォラン

タリな体裁をとっているばあいでも、実際には暗黙の圧力・義務感のもとで贈られることが多い。とくに同格の他の人びと——同僚や同業者——がみな付け届けをしているのに、一人だけそれを怠ったばあい、礼儀をわきまえない者として目をつけられるかもしれない。このように、「贈り物を与える義務」のばあいには贈与者・受贈者間だけでは完結せず、そこに比量の対象となる他者(同僚や同業者)が登場する。そして、受贈者側で実際に同格他者との比量がおこなわれるか、実際におこなわれないまでも、そのような比量がおこなわれることを恐れる気持ちが贈与者側に晒しさえすれば、それはいつでも義務となるのである。

同じような問題は、寄付行為や慈善事業をめくつてもおこる。このケースでは、圧力をかける主体が受贈者個人でなく社会であることがより一層鮮明となるだろう。

ともに年俸数億円という二人の大物スポーツ選手がいたとする。大規模災害がおきたさい、A選手はすぐさま数十万円の寄付をしたが、B選手はいつさい寄付をしなかった。人びとはA選手の気前よさに感心すると同時に、寄付をしなかったB選手にたいする評価を格下げすることも忘れないだろう。実際のところ、B選手は世間が思うことおりの吝嗇家であつたのかもしれないし、そうではなく、A選手とのポトタッチ(贈与競争)に陥ることの不利を察して手を引いただけなのかもしれないが、いずれにせよ、彼らはこのような世間の懲罰や比量につねにさらされているのである。

〈富める者(金持ち)は喜捨(施)をしなければならない〉富める者は貧者を救わねばならない〈富める者はその富を社会に還元しなければならない〉——これらは歴史上のさまざまな時代、さまざまな地域に広くみられた倫理である。中世日本に存在した有徳思想もそのひとつだ。これは、金持ちは道徳的にも優れている、あるいは優れていなければならないとする思想であり、当時、金持ちが「有徳人」とよばれたのもこの思想に由来する。「有徳」はしばしば「有徳」とも表記されたが、ここからもわかるように、中世の人びとにとって人徳の「徳」と所得の「得」はほぼ同義語ととらえられていた。『徒然草』二二七段に登場する大福長者が「人は、万をさしおきて、ひたふるに徳をつくべきなり」と語るときの「徳」がまさにそれであり、ここでの「徳」は富・財産を意味しているのである。

この思想を背景に、金持ちにはさまざまな場面でその富を社会に還元することが求められた。中世には有徳銭・有徳役などよばれた、金持ちだけに賦課される富裕税が存在したが、これはいわば強制された喜捨にはかならなかつたし、金融業者に債権放棄を求めた有名な徳政一揆、徳政令の背景にもこの思想が見ついていた。現在の寄付行為や慈善事業をめくつて財産家や有名にかかると無言の圧力も、なぜそうすべきかという理屈は変わつても、社会心理学的には同じ感情が作用していることはまちがいないだろう。

なお、世界史上には、貧者への施しを神にたいする贈与と等価的な行為とみて、次にみる「第四の義務」と結びつけて理解していた社会や文化もある。キリスト教圏がそうであつたし、右の有徳銭も初期にはそのような性質を帯びていたと考えられている。

最後の「神にたいする贈与の義務」は、四つの義務のなかでは現代になつてもっとも希薄化したものであり、私たちが日常生活のなかでこれを実感する機会はその多くはないかもしれない。しかし歴史をさかのぼれば、人びとの生活のなかできわめて大きな比重を占めていたものであり、ゴドリエをはじめ、四つの義務のなかでもっとも根幹的なものとして重視する研究者も少なくない。

身近な例としてまつさきに思いつくのは寺社の齎銭<sup>さいせん</sup>や供物であろう。要するに、神頼みも無償ではかなえてもらえないわけだが、かといつてそれはかならずしも多額である必要はない。世界史上には莫大な供儀(いげにえ)を神に捧げていた文化も知られているが、そうした類型のなかでは、日本の神仏は人に多くを要求することがなく、きわめて懐ましい部類に属するといえよう。このように安上がりで微温的な信仰のあり方は、おそらく多神教に起因するところが小さくないと思われる。<sup>①</sup>捨てる神あれば拾う神ありという神々の競合状態が、贈与額の高騰を抑制してきた面もあるにちがいない。

(桜井英治『贈与の歴史学』による)

(注) ヴォランタリーな 自発的な

問一 傍線部(ア)「チヨウリエウ」、(イ)「セイヤ」、(ウ)「カゴン」、(エ)「賄賂」の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に改めなさい。解答は(A)票。

問二 傍線部(1)「奇特な人」、(2)「吝嗇家」という表現の意味として、最も適当なものを、それぞれ①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は(B)票。

- |          |   |                      |
|----------|---|----------------------|
| (1) 奇特な人 | ① | 社会常識に対してまったく無頓着な人    |
|          | ② | 自分が置かれた状況を客観視できない人   |
|          | ③ | 他人の気持ちにおよそ注意を払わない人   |
|          | ④ | 一般には行いがたいことを進んでする人   |
|          | ⑤ | 自分の思いが必ず相手に届くと信じている人 |
| (2) 吝嗇家  | ① | ひどく物惜しみをする人          |
|          | ② | 行動が並外れて慎重な人          |
|          | ③ | 周りからの期待を裏切る人         |
|          | ④ | 目立つのを極度に嫌う人          |
|          | ⑤ | 他人を思いやる心がない人         |

問三 傍線部(ア)「贈り物を受ける義務」に関する説明として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は(B)票。

- ① 「贈り物を受ける義務」とは、あらかじめ良好な関係ができている相手から贈与が行われた場合にはじめて生じるものなので、贈与者側がそのような相手でない場合、贈られた側は無理に贈り物を受け取らなくてもよい。
- ② 贈り物をするにあたり、贈与者側が受贈者側に特別な人間関係を築いてくれることを期待して贈ったとしても、贈られる側にそのような関係を築こうとする意思がない場合、「贈り物を受ける義務」は履行されないことがある。
- ③ 贈与が行われれば、通常は贈られた側に「贈り物を受ける義務」が生じるが、贈られた側が公職にあり、その利害関係者が贈与者側である場合、公平性の観点から、贈られた側が贈り物を受け取ることは認められていない。
- ④ 贈り物を贈られた側に「贈り物を受ける義務」があると考えられるときでも、現代の礼儀作法に照らして、贈与者側の贈り方がそれに即<sup>おと</sup>っていないと判断された場合は、贈られた側で贈り物の受け取りを拒否することができる。
- ⑤ 贈与者側がどのような意図で贈与を行うかということに関係なく、贈られる側が贈与者との間で良好な関係を構築したり、維持したりしようと考えていない場合には、贈られた側に「贈り物を受ける義務」が生じることはない。

問四 傍線部(ウ)「同じ感情」とはどのような感情か。その説明をした次の文の空欄に当てはまる言葉を、本文中から三十字程度で抜き出さなさい(句読点も一字とする)。解答は(A)票。

□ とする感情。

問五 傍線部(C)「捨てる神あれば拾う神あり」という神々の競合状態が、贈与額の高騰を抑制してきたとあるが、どういうことか。その説明として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は(B)票。

- ① 日本では多様な神が信仰されており、その中のいずれかにも願いをかなえてもらおうと思えば、神々全体に満遍なく贈与を行わなければならない。しかし人ひとりが贈与できる額にはどうしても限りがあるため、必然の結果として、個々の神に対する贈与額は低く抑えられてきたということ。
- ② 日本で信仰されている多様な神々の中には、人の願いをかなえるにあたり、必ずしも高額な贈与を要求しない神も多く存在する。人びとはそのような神に優先的に願いごとをしてきたため、その結果として、神に対する贈与額がそれほど高くはならないという状況がこれまで続いてきたということ。
- ③ 日本では多様な神が信仰されており、神々が競うようにして願いをかなえてくれると信じられている。神頼みをするのに無償というわけにはいかないが、贈与が少額であっても願いはかなえられるという考えが人びとの間で広がった結果、神々に対する贈与額が低く抑えられてきたということ。
- ④ 日本で信仰されている多様な神々の中には、願いごとをしてもらえたいという見込みがほとんどなさそうな神も多く存在する。人びとがそのような神に進んで贈与を行うことはないため、その結果として、神々全体に対する贈与額はこれまでそれほど高くなりませんでしたということ。
- ⑤ 日本では多様な神が信仰されており、その中のいずれかの神が願いをかなえてくれるだろうと思われている。よって特定の神に対し、何としても願いをかなえてもらいたいという思いから人びとが高額な贈与を行うことはなく、結果的に神々に対する贈与額が比較的 low に抑えられてきたということ。

問六 本文の内容と合致しないものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は(B)票。

- ① 自分が世話になる人に対し、自分と同格の他者がすでに付け届けをしている場合、世話になる相手側から礼儀をわきまえない者として目をつけられる恐れがあるため、自分も贈り物をせざるを得なくなる。
- ② 上司や得意先に贈り物をするのは、単に「贈り物を与える義務」による行動だとも考えられるが、日ごろ彼らから受けている恩恵を贈与ととらえれば、それともなう「お返しの義務」によるものとも考えられる。
- ③ キリスト教圏では、貧者へ施しを行うことについて神に対する贈与と同等の価値ある行為と見る向きがあるが、研究者の中にも、貧者への施しを贈与の中で最も根幹的な行為だとして重視する人が少なからずいる。
- ④ 日本は、先進諸国の中でも例外的に多くの贈答儀礼を残している文化として世界中の研究者から注目されてきたが、それだけではなく、新たな贈答儀礼を次々と生み出しているという点でも特異な位置を占めている。
- ⑤ 贈与をめぐる義務としてモースがあげた三つ、さらにのちにコドリエがあげた一つ、合計四つのものは、贈与のあるところには、それが親子兄弟などごく近い肉親間で行われる場合を除き、たいてい付随している。

(乙) 次の文章は、『松浦宮物語』の一節である。遣唐使に任せられた橘たち氏忠（少将）たち一行は、航海の末に唐に到着した。以下は、それに続く場面である。これを読んで、後の設問に答えなさい。

ほどなく召しありて、都（注1）に参るほど、はるかに遠き山、河、野原を過ぎ行けば、きびしき道、さがしき山を越えつつ行くに、五月の雨晴れず、いと筵（注2）宿りもわづらはしけれど、都に参りぬれば、このころ、御門（注3）三十余ばかりにて、いみじき聖の御代なり。

未央（注4）の前殿（注5）に出でたまひて、この人々を召さる。衛府のつかさども、いつくしく陣を引きて守りたてまつるなかを分けて、御前に参るほど、まつ衆の声をととのふ。すぐれたる限りなれば、くちをしきことなし、次に文（注6）など作りて、おのおの試みたまふに、この少将、才のほどを御覧するに、けしうはあらずかしこきはさるものにて、かたちのいとめでたきを御目とどめて御覧ず。「年いくらにかなる」と問ひたまへば、宰相、十七になるよしを申す。「いまだいはけなかりけるほどを、いかでかばかり、はたありけむ」とあはれがらせたまる。

いと若きうち、かたちのすべて世になきさまなれば、あはれにおほ名れし、遠くも遣はさず、宮近きあたり、時の大臣におほせられて、さるべき心まうけども、えも言はずせさせたまふ。明け立てば、宮の内に召して、たまさまの遣を試み、習はさせたまふ。なにごとにも、すべて本の国の人、及びがたくのみあるにつけて、人はめざましう思ふかたもあれど、御門御覧するやうありて、いみじう恵みかへりみたまふ。この人ひとりを召し抜きて、いとけ近く語らせたたまふを、大臣、さるべき人々も、なほわざと文をたてまつり、言葉を終くしていさめたてまつる。

「我が君、天の下しるしめししより、いさめごとに従ひ、政を治めたまふこと、流れに陣を下すがごとし。いやしき草刈、山がつのことまで捨てたまはず。いまはるかなる境より渡り参れる旅人の、よはひ至らぬを近づけ用ゐたまふこと、御代のきずとなりぬべし」といさめたてまつるを、まことにあやしきまで用ゐたまはず。漢武（注6）の金日磾（注7）、我が国の人にあらざりき。人を用ゐることは、ただそのかたち、心に従ふべし」とのたまひて、いと親しくのみならせたまふを、あやしきまで思ひあへれど、げに、かたち、身の才たらひて、見えぬさまなるを、あはれに御覧すれば、いみじう時めかさせたまふ。道々のこと、文の心をいとなつかしうのたまはせ知らするに、ましていくばくの目数ならねど、さとり深くのみなりゆく。

(注1) 都 唐の都、長安。唐は中国の王朝。

(注2) 筵宿り 雨宿りをする事。

(注3) 御門 未央宮。長安の南西部にあつた宮殿。

(注4) 前殿 宮殿前方に位置する表御殿。

(注5) 衛府のつかさ 宮殿を守護する役人。

(注6) 漢武 前漢の武帝の時代。前漢は古代中国の王朝。武帝はその第七代の皇帝。

(注7) 金日磾 前漢の武帝に仕えた人物。異民族である匈奴の皇子であつた。

問一 傍線部①「次に文など作りて」、②「あはれにおぼされて」、③「いみじう時めかさせたまふ」の口語訳として、最も適当なものを、それぞれ①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答はB票。

- |                  |                                                                                                                             |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 次に文など作りて     | ① 続いて和歌などを作つて<br>② 次々に名前などを書いて<br>③ 続いて漢詩などを作つて<br>④ 続いて手紙などを書いて<br>⑤ 次々に書物などを作つて                                           |
| (2) あはれにおぼされて    | ① しみじみと嬉しいとお思ひになつて<br>② しみじみとかわいとお思ひになつて<br>③ しみじみと気の毒にお思ひ申し上げて<br>④ しみじみと心細くお思ひになつて<br>⑤ しみじみと大切にお思ひ申し上げて                  |
| (3) いみじう時めかさせたまふ | ① もつとも使役なさる<br>② たいそう寵愛 <small>ちゆうあい</small> なさる<br>③ たいそう賞賛 <small>しょうさん</small> なさる<br>④ もつとも榮えていらつしやる<br>⑤ たいそう今風でいらつしやる |

問二 傍線部(A)「いまだいはけなかりけるほどを、いかでかばかり、はたありけむ」とあるが、この発言をした時の御門に関する説明として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答はB票。

- ① まだ十七歳になつたばかりなのにもかかわらず、少将の音楽や学問の才能が、その場にいる誰よりも優れていることに対して感心している。
- ② まだ唐へやつて来て日が浅いのにもかかわらず、少将が唐の言葉を習得しており、自身との会話に支障がなかったことに対して感激している。
- ③ まだ十七歳という若さであるのもかわらず、少将が学才に秀でており、容姿も非常に整っていることに対して驚嘆している。
- ④ まだほんの子どもであるのもかわらず、少将が、他の大人たちに混じつて遣唐使の一行に加わっていることに対して不思議がっている。
- ⑤ まだ楽器を練習し始めたばかりなのにもかかわらず、少将の演奏が、長年修練を積んだ自身の演奏にも引けを取らなかつたことに対して驚愕きやうがくしている。

問三 傍線部(B)「えも言はずせさせたまふ」を、例にならつて単語に分けなさい。解答はA票。

(例) 都 に 参 り ぬ れ ば  
 ↓  
 都 一 に 一 参 り 一 ぬ れ 一 ば

問四 傍線部(C)「大臣、さるべき人々も、なほわざと文をたてまつり、言葉を尽くしていさめたてまつる」とあるが、「大臣、さるべき人々」はなぜ御門をいさめたのか。その理由を、四十字程度で書きなさい(句読点も一字とする)。解答はA票。

問五 傍線部①「政を治めたまふこと、流れに棹を下すがごとし」とあるが、「流れに棹を下すがごとし」とはどのようなことを意味するか。その説明として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は〈B 票〉。

- ① 政治が滞りなく順調に行われていたということ。
- ② 政治に問題があり批判が噴出していたということ。
- ③ 政治が腐敗して世の中が混乱していたということ。
- ④ 政治が絶対的な権力のもとで進められていたということ。
- ⑤ 政治に対する批判はこれまで一切なかったということ。

問六 傍線部②「まことにあやしきまで用ゐたまはず」とあるが、「用ゐたまはず」とはどういうことか。その説明として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は〈B 票〉。

- ① 大臣たちが、少将を疎んじて蔑ろにしたということ。
- ② 大臣たちが、御門の命令に従わなかったということ。
- ③ 少将が、大臣たちの陰口を意に介さなかったということ。
- ④ 御門が、大臣たちの忠言を聞き入れなかったということ。
- ⑤ 御門が、少将を召し使うのをやめたということ。

問七 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答は〈B 票〉。

- ① 少将たち遣唐使の一行は、長安に到着すると御門の御前で音楽の演奏を行ったが、少将以外の演奏は拙く、御門の関心をひくことはなかった。
- ② 御門は前漢の武帝を自らの手本としており、武帝のように異国の人間を配下に置くことが、よりよい治世の実現に繋がると考えていた。
- ③ 未央宮では、役人たちが陣を敷いて厳しく警固にあたっており、少将たち一行は御門の許可が出るまで中に入ることができなかった。
- ④ 御門の年齢は二十歳ほどであり、昨年出家をしてからというもの、熱心に仏道修行に明け暮れていたため、高位の僧としても名が知られていた。
- ⑤ 少将たち遣唐使の一行は、御門に呼び寄せられて長安へ向かったが、その道中には歩みにくい道や険しい山があり、天候も悪かった。

問八 『松浦宮物語』の作者は藤原定家であると伝えられる。次の①～⑤のうち、藤原定家が撰者の一人となった和歌集を一つ選びなさい。解答は〈B 票〉。

- ① 古今和歌集      ② 金葉和歌集      ③ 後拾遺和歌集      ④ 新古今和歌集      ⑤ 後撰和歌集

化学基礎

問題を解くのに必要があれば次の値を使うこと。

原子量：H：1.0, C：12, O：16, Na：23

〔I〕 次の問1～3に答えよ。

問1 次の文中の(ア)～(オ)に適した語句を入れ、文章を完成させよ。

物質を構成している基本的な成分を(ア)といい、アルファベットの大文字1字、または大文字1字と小文字1字で記す(イ)を使って表される。1種類の(ア)からできている純物質を(ウ)といい、2種類以上の(ア)からできている純物質を(エ)という。同じ(ア)からなる(ウ)でも、原子の結びつき方や配列が異なるために性質が異なる物質どうしを互いに(オ)であるという。

問2 次の(1)と(2)に答えよ。

- (1) 下記の物質①～⑩を問1の(ウ)と(エ)に分類し、番号で答えよ。
- (2) 下記の物質①～⑩の中から、互いに同素体であるものを2組選んで番号で答えよ。

- ① アンモニア    ② 黒鉛    ③ オゾン    ④ 水  
 ⑤ 過酸化水素    ⑥ 塩化ナトリウム    ⑦ フラレーン  
 ⑧ 酸素    ⑨ 二酸化炭素    ⑩ 水素

問3 次の文章を読み、(1)と(2)に答えよ。

ある2種類の水溶液をそれぞれ白金線の先につけ、ガスバーナーの外炎で加熱したところ炎は黄色と青緑色を示した。

ただし、溶媒による影響の可能性はないものとする。

- (1) この実験操作によってみられる現象を何とよいか答えよ。
- (2) 黄色の炎が確認された水溶液と、青緑色の炎が確認された水溶液に含まれる元素を元素記号で答えよ。

〔Ⅱ〕

問 1 次の図について(1)~(3)に答えよ。

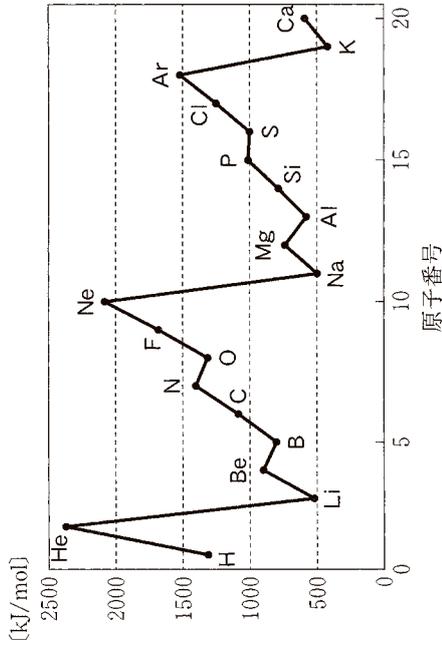


図 周期的変化

- (1) 図の縦軸は、気体の原子から最外殻電子1個を取り去って、1個の陽イオンにするために必要なエネルギーを示したものである。これを何と云うか答えよ。
- (2) (1)が大きく陽イオンになりにくいものを図から選び、最も陽イオンになりにくいものから順に3つ元素名で答えよ。
- (3) (1)が小さく1個の陽イオンになりやすいものを図から選び、陽性が強いものから順に3つ元素名で答えよ。

問 2 次の(1)~(5)は、物質を構成する粒子の結びつきに関する記述である。それぞれ何とよばれるか答えよ。

- (1) 陽イオンと陰イオンが静電的な力によって引きあっている結合。
- (2) 2つの原子が、互いに対していない価電子を共有している結合。
- (3) 上記(1)と(2)の結合よりも弱い力で分子間にはたらく力。
- (4) 原子の最外殻電子のうち、電子配置のモデルを電子式で表すときに対になっていない電子。
- (5) (1)の結合にはたらく静電的な引力。

問 3 (1)と(2)に示す各分子の電子式と構造式を例にならって答えよ。

- (1) 四塩化炭素  $\text{CCl}_4$
- (2) エチレン  $\text{C}_2\text{H}_4$

例	水 $\text{H}_2\text{O}$
電子式	構造式
$\text{H}:\ddot{\text{O}}:\text{H}$	$\text{H}-\text{O}-\text{H}$

〔Ⅲ〕市販の食酢の濃度を調べるために1)～3)の実験を行った。実験内容を確認し、問1～3に答えよ。

1) シュウ酸標準液の調製

シュウ酸二水和物 $[H_2C_2O_4 \cdot 2H_2O]$ の結晶を正確に0.630 g はかり取り、ビーカーに入れて少量の純水を加え完全に溶かした。この水溶液を100 mLの(ア)に入れた。さらに、使用したビーカーやガラス棒を純水ですすぎ、この液も加えた。最後に純水を標線まで加え、栓をしてよく振り混ぜた。

2) 試料溶液の調製

市販の食酢を(イ)で正確に10.00 mL はかり取り100 mLの(ア)に入れ、純水を標線まで加え、栓をしてよく振り混ぜた。

3) 滴定実験

【実験操作①】

(イ)でシュウ酸標準液を10.00 mL はかり取り、(ウ)に入れた。これにa.指示薬を1～2滴加えた。

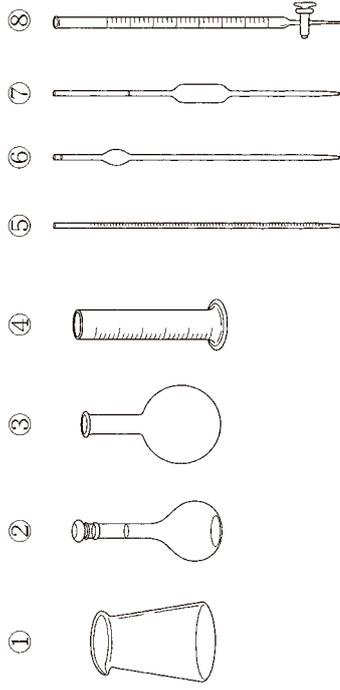
濃度が未知の水酸化ナトリウム水溶液を(エ)に入れて少しずつ滴下し続け、シュウ酸標準液がわずかに赤くなり振り混ぜてもその色が消えなくなる点を終点とした。

【実験操作②】

希釈した食酢を(イ)で10.00 mL はかり取り、(ウ)に入れた。以下、実験操作①と同様に滴定を行った。

実験操作①および②はそれぞれ5回繰り返し滴定を行い、得られた滴定値から平均値を算出した。

問1 文中の(ア)～(エ)に最も適したガラス器具を下図より選び番号で答えよ。さらに、それぞれのガラス器具の名称を答えよ。



問2 下線部a.の指示薬として最も適したものは何か答えよ。

問3 1)～3)の実験について、(1)～(3)に答えよ。

なお、解答する数値の有効数字は2桁とせよ。

(1) シュウ酸標準液のモル濃度[mol/L]を求めよ。

(2) 実験操作①において、中和点まで要した水酸化ナトリウム水溶液の平均値は10.0 mLであった。この水酸化ナトリウム水溶液のモル濃度[mol/L]を求めよ。

(3) 実験操作②において、中和点まで要した水酸化ナトリウム水溶液の平均値は6.80 mLであった。希釈する前の食酢の酢酸のモル濃度[mol/L]と酢酸の質量パーセント濃度[%]をそれぞれ求めよ。

ただし、食酢の密度は $1.02 \text{ g/cm}^3$  (g/mL)、含まれる酸は酢酸 $[CH_3COOH]$ のみとする。

〔Ⅳ〕 次の問に答えよ。

問 Ⅰ (1)～(3)の説明文中の(a)～(f)に、酸化または還元のごちらかか適した語句を入れよ。

- (1) 酸素原子を受け取る化学変化を( a )されたといい、逆に酸素原子を失う化学変化を( b )されたという。
- (2) 水素原子を受け取る化学変化を( c )されたといい、逆に水素原子を失う化学変化を( d )されたという。
- (3) 酸化・還元は、電子 $e^-$ のやり取りでも定義することができる。物質が電子を失ったときを( e )されたといい、逆に物質が電子を受け取ったときを( f )されたという。

問 Ⅱ 次の化学式の下線を引いた原子の酸化数を求めよ。

- (1)  $K_2\underline{Cr}_2O_7$
- (2)  $\underline{N}H_4NO_3$

問 Ⅲ 次の文章を読み、(1)～(4)に答えよ。

市販のオキシドール(過酸化水素水、密度 $1.01\text{ g/cm}^3$ )を正確に10倍に希釈したものである。この水溶液を正確に10.0 mLはかりとり、少量の希硫酸を加えて酸性にした。これを温めながら $0.0400\text{ mol/L}$ の過マンガン酸カリウム水溶液で滴定したところ、ちょうど10.0 mLのところまで過マンガン酸イオンの色が消えずに残った。

- (1) 過酸化水素が還元剤として、過マンガン酸カリウムが酸化剤としてはたらくときの電子 $e^-$ を含む反応式を完成させよ。



- (2) 硫酸酸性の水溶液中での、過酸化水素と過マンガン酸カリウムの反応をイオン反応式で記せ。
- (3) (2)の反応を、イオンを含まない化学反応式で記せ。
- (4) 希釈前のオキシドールについて、過酸化水素のモル濃度(mol/L)と質量パーセント濃度[%]を有効数字2桁で求めよ。

## 生 物 基 礎

問 2 次の①～③はヒトの染色体に関する文である。文の内容が正しければ○、誤りがあれば×と答えよ。

- ① 染色体は、常に凝集して棒状になっている。
- ② 染色体には、遺伝子が存在する。
- ③ 1 個の体細胞に含まれる染色体は、母親由来か父親由来のどちらから 1 組で構成されている。

〔 I 〕 次の問 1 ～ 2 に答えよ。

問 1 次の文章を読み、(1)～(5)に答えよ。

バクテリオファージの T<sub>2</sub>ファージは、大腸菌に侵入感染する(ア)である。T<sub>2</sub>ファージは、内部の(イ)を(ウ)でできた殻(外被)が取り囲む構造をしている。

1952年に(エ)と(オ)は、次のような実験を行った。T<sub>2</sub>ファージの(イ)と(ウ)を標識し、別々に大腸菌に感染させた。これらの a. 大腸菌をミキサーで激しく攪拌し、遠心分離して大腸菌を沈殿させた。

その b. 上澄みと沈殿した大腸菌から標識を検出した。

- (1) (ア)～(ウ)にあてはまる最も適切な語句を答えよ。
- (2) (エ)と(オ)にあてはまる最も適切な科学者の名前を答えよ。  
解答の順序は問わない。
- (3) 下線部 a. の攪拌でどのようなことが起きたか 30 字以内で説明しなさい。
- (4) 下線部 b. で(イ)と(ウ)は、上澄みと沈殿した大腸菌のどちらに多く含まれていたかそれぞれ答えよ。
- (5) この実験から証明された生物学上の重要な結論を 20 字以内で説明しなさい。

〔Ⅱ〕 次の問1に答えよ。

問1 次の文章を読み、(1)～(4)に答えよ。

体内環境は、絶えず変動する体外環境の影響を受ける。ヒトの体には、これらさまざまな変動を敏感に感知して、できるだけa. 体内環境を一定に保とうとする調節のしくみがある。

脊椎動物の体液には、血液、(ア)、リンパ液の3種類がある。血液は、有形成分である血球と液体成分である血しょうに分けることができる。血球には、(イ)、(ウ)、血小板がある。下の表に、ヒトの血球の特徴を整理した。

	形態的特徴	核	形成場所	破壊場所	はたらき
(イ)	中央がくぼんだ円盤状	(エ)		(カ)、 心臓	(キ)を含み、 酸素を運搬する。
(ウ)	多様な形状	有	(オ)	心臓	免疫反応に関係し、 病原体を(ク)により細胞内に取り込んで処理する。
血小板	円形またはだ円形	無		心臓	(ケ)に関係する。

(1) 下線部a.のしくみを何というか答えよ。

(2) (ア)～(ケ)にあてはまる最も適切な語句を答えよ。

(3) リンパ液が血液と合流する場所の血管の名称を答えよ。

(4) 次の脊椎動物の血しょうについて説明した次の①～④の文のうち、誤っているものをすべて選び、番号で答えよ。

- ① 血しょうの成分は、ほとんどが水分でタンパク質やグルコースや無機塩類を含む。
- ② 血しょうは、免疫に関係する成分を含む。
- ③ 血しょうの成分が、血管外に出ることはない。
- ④ 血しょうは、血液凝固に関わるタンパク質や微量のホルモンを含む。

〔Ⅲ〕 次の問Ⅰに答えよ。

問Ⅰ 次の文章を読み、(1)～(6)に答えよ。

食物は、口腔や胃や小腸で消化や吸収が行われ、グルコースやアミノ酸などの栄養素はa. 肝門脈を通じて肝臓に運ばれ、肝細胞に取り込まれる。肝細胞は小腸で吸収された一部のグルコースを(ア)に合成し、一時的に蓄える。その際、すい臓から分泌されるホルモンである(イ)が必要である。空腹時には、b. (ア)を分解しグルコースとして血液中に戻すほか、c. アミノ酸などからグルコースを合成する。また肝臓は、d. 体内環境を一定に保つうえで重要な血しょう中のタンパク質の多くを合成するはたらき、アミノ酸の分解により生じた有害な(ウ)を毒性の少ない(エ)に変えるはたらき、アルコールなどの有害物質を酵素により分解する(オ)作用を有する。胆汁は、肝臓で合成され胆のうに一時的に蓄えられ胆管を通じて十二指腸に放出され、(カ)の消化吸収を助ける。

- (1) (ア)～(カ)にあてはまる最も適切な語句を答えよ。
- (2) 下線部a.の血管を流れている血液は、動脈血と静脈血のどちらかか答えよ。
- (3) (イ)が分泌されるすい臓のランゲルハンス島の細胞の名称を答えよ。
- (4) 下線部b.に関与するホルモンを2つ答えよ。

(5) 下線部c.の作用を何とよいか答えよ。

(6) 下線部d.で血しょう中に最も多く含まれるタンパク質の名称を答えよ。

〔IV〕 次の問1に答えよ。

問1 次の文章を読み、(1)~(4)に答えよ。

生物は多様だが、a.いくつかの共通する特徴がある。例えば、すべての生物は(ア)を基本単位とし、(イ)は(エ)により外部と仕切られている。

生物は、有機物を分解して放出されるエネルギーを用いて(ウ)を生成し、生命活動に利用している。有機物からエネルギーを取り出す方法には、酸素を必要とする呼吸と必要としない発酵などがある。真核細胞では、呼吸は細胞小器官の一つである(エ)で行われる。呼吸では、有機物の分解により(オ)と二酸化炭素が生成する。

植物は、細胞小器官の(カ)で光合成を行う。光合成は、(キ)に吸収された(ク)を用いて(ケ)を合成し、そのエネルギーを利用して(コ)と二酸化炭素から有機物を合成し、(ク)が生成する。

下の表は、ある植物の葉(100 cm<sup>2</sup>)を用いて、温度10℃から40℃まで変えたときの光合成速度と呼吸速度を測定した結果である。ただし、光の量はじゅうぶんで一定とし、表の値は1時間当たりの二酸化炭素の吸収量・放出量(mg)を示している。

温度(℃)	光合成速度	呼吸速度
10	11.5	3.5
15	16.0	5.0
20	20.5	7.0
25	21.0	10.5
30	20.5	12.0
35	18.0	14.0
40	15.5	16.5

- (1) (ア)~(ク)にあてはまる最も適切な語句を答えよ。
- (2) 下線部a.のすべての生物に共通した特徴がみられることからのようなことが考えられるか30字以内で説明しなさい。
- (3) 二酸化炭素の吸収速度(見かけの光合成速度)が光合成速度の半分になる温度を答えよ。
- (4) 葉に蓄積される光合成産物の量が最も大きくなる温度を答えよ。

令和7年度 盛岡大学一般選抜 試験問題 英語

〔I〕 次の問1～問2の設問に答えなさい。

問1 次の(1)～(4)について、空欄に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選びなさい。

(1) His absence of over 150 days meant that he had ( 1 ) more school days than he had attended.

- ① found
- ② missed
- ③ dispatched
- ④ supplied

(2) She is so arrogant that her ( 2 ) is always up in the air.

- ① nose
- ② leg
- ③ mouth
- ④ hand

(3) Please ( 3 ) my regards to your parents.

- ① dispose
- ② hold
- ③ see
- ④ send

(4) David would neither ( 4 ) nor deny the rumor.

- ① disagree
- ② confirm
- ③ reject
- ④ oppose

問2 次の(5)～(7)の文章に続く表現として最も適切と思われるものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選びなさい。

(5) (*Hamlet* by William Shakespeare) To be, or not to be,

- ① that is the death.
- ② that is the life.
- ③ that is the question.
- ④ that is the answer.

(6) A famous author once said that a writer is only half his book. The other half is

- ① the reader whom the writer learns from.
- ② the paper that the writer writes on.
- ③ the pen that the writer uses.
- ④ the money that the writer gets from selling the book.

(7) He didn't talk much to his friends after the university entrance examination, because

- ① he finally met his friends after a long examination.
- ② he was too ashamed that he couldn't answer many of the questions in the examination.
- ③ he was not allowed to talk after the examination.
- ④ he walked along with his friends.

〔Ⅱ〕 次の問1～問4の設問に答えなさい。

問1 次の(8)～(10)の問いについて、最も適切と思われる答えを、それぞれの①～④のうちから一つずつ選びなさい。

(8) Teacher: Tim! Why didn't you appear yesterday?

Tim: «Ummm...»

Teacher: Stop that! You sound like you are chewing gum!

Why did the teacher ask Tim to stop what he was doing?

- ① Because Tim couldn't answer the teacher.
- ② Because Tim was impolitely chewing food while talking.
- ③ Because Tim was talking to his friend.
- ④ Because Tim felt sorry that he was absent yesterday.

(9) Father: How was your interview today? Do you think you would get the job?

Rebecca: It's none of your business!

Father: What? What did you say to me?

Rebecca: Don't pretend to care about me now!

Why was Rebecca rude to her father?

- ① Because her father seldom cared about her.
- ② Because her father couldn't hear her.
- ③ Because her father wants her job.
- ④ Because her father hopes she will fail the interview.

(10) Supervisor: Why did you act so boldly at the scene? You should have listened to me!

Police Officer: Sir, it is the active police officers who know best at the crime scenes.

What did the police officer try to tell his supervisor?

- ① Active police officers have experience to handle the real crimes that happen at the scenes.
- ② Active police officers are brave unlike their supervisors.
- ③ Supervisors always show kindness to the active police officers.
- ④ Active police officers are sometimes selfish because they are the best in the police force.

問2 次の(11)～(13)について、Bの心情として最もふさわしいものを、それぞ  
れ下の①～④のうちから一つずつ選びなさい。

(11) A: The report is due on Thursday next week.

B: What?! I'm almost falling out of my chair!

- ① B thinks that the due date for the report is reasonable.
- ② B thinks that A should have announced the due date earlier.
- ③ B thinks that A's chair is old and slippery.
- ④ B thinks that he is working so hard that he cannot sit properly on his chair.

(12) A: How was your winter vacation? It must have been great because your hometown is a popular ski resort!

B: My hometown is a place where the population swells too much in winter.

- ① B wants A to come and enjoy B's hometown next winter.
- ② B is happy that his hometown is a popular ski resort.
- ③ B thinks that A does not like B's hometown.
- ④ B thinks that winter in his hometown is too crowded to enjoy.

(13) A: You always carry a book with you!

B: Reading is for people who want to escape real life.

- ① B enjoys reading books to experience another world.
- ② B wants A to read more books.
- ③ B thinks A is always looking closely at B.
- ④ B is unhappy to be seen as an active reader.

問 3 次の会話を読み、空欄(14)～(17)に入れる答えとして最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選びなさい。

A teacher is talking to her student about class participation.

Ms. Smith: I noticed in class today that you didn't turn around to talk with your group members during group discussion.

Tim: I'm alright. I don't need to talk to my group members.

Ms. Smith: No, that is not a choice and I'm not asking you for your opinion on group work. Group work is a necessary activity in class for your communicative practice and effective learning.

Tim: I don't like my group members.

Ms. Smith: What? How can you say that? You have been classmates with them for a long time. Why do you dislike them?

Tim: No particular reason.

Ms. Smith: That is totally unreasonable. Anyway, regardless of whether you like them, you have to do group work properly with whoever you are grouped with. This is a life skill. You need to be professional. In the future, at your workplace, you cannot choose your colleagues either. You have to learn to work with anyone.

Tim: No, thank you. I'll be fine on my own. I simply don't like Melissa.

Ms. Smith: That is rude and unacceptable behavior. You have to learn to get along with different people in class. Next week in class, please do group discussions properly when you are told.

Tim: Whatever.

(14) In class, Tim did not participate in the group discussion because ( 14 ).

- ① he disliked the teacher
- ② he was hungry
- ③ he wanted to attract attention from his classmates
- ④ He did not like a member of the group

(15) Ms. Smith said that group work was ( 15 ) in her class.

- ① unnecessary
- ② essential
- ③ unreasonable
- ④ optional

(16) Ms. Smith claimed that Tim should participate in the group work because ( 16 ).

- ① group work is a great way to learn how to get along with others
- ② group work is a great way to learn how to choose your colleagues
- ③ classmates should compete with each other
- ④ classmates should not be friends with each other

(17) Tim was unlikely to accept Ms. Smith's persuasion, because ( 17 ).

- ① his argument is reasonable
- ② his argument is believable
- ③ his attitude was stubborn
- ④ his attitude was flexible

問 4 次の英語の投稿を読み、空欄(18)～(21)に入れる答えとして最も適当なものを選び、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選びなさい。

This is an online conversation exchange between Dennis and someone who messaged him on a message application system.

+ 036-0230807398

Hello! I haven't seen you in a long time. How have you been?

Dennis:  
Who are you?

+ 036-0230807398

Do you remember me? My name is Kenneth. I was introduced to you by your friend in junior high school.

Dennis:  
No, I don't think I remember.

+ 036-0230807398

Ok, it doesn't matter. I'm happy to see you again online. Do you play battle games?

Dennis:  
Yes, I love action and fighting games.

+ 036-0230807398

That is perfect! I want to recommend this awesome game to you where you can play with different people and earn money at the same time. Are you interested?

Dennis:

Sure! Sounds like something I could try!

+ 036-0230807398

For this game, you earn money based on the amount of time you play. You also get more bonus cash with more fights won and better fighting skills learned. Doesn't that sound fantastic? The creator is trying to promote the game by paying the players.

Dennis:

I see. What should I do next?

+ 036-0230807398

You need to send over just 100 yen to this account: [www.itsnotascamdontworry.com](http://www.itsnotascamdontworry.com). This is to let the organizers know your account number. After that, they will send you a link to start playing the game and you can collect money as you play! It's as easy as that!

(18) Kenneth is ( 18 ).

- ① the best friend of Dennis' friend
- ② a person Dennis doesn't remember
- ③ a president of the bank
- ④ Dennis' parent

(19) Kenneth wants to ( 19 ).

- ① play a battle game with Dennis
- ② become friends with Dennis
- ③ introduce a game to Dennis
- ④ see Dennis face-to-face

(20) Dennis seems interested in a game that ( 20 ).

- ① he can play with different people without any advertisements
- ② makes him pay some money depending on the number of games he loses
- ③ he can play anytime and anywhere
- ④ lets him earn money based on his skills in the game

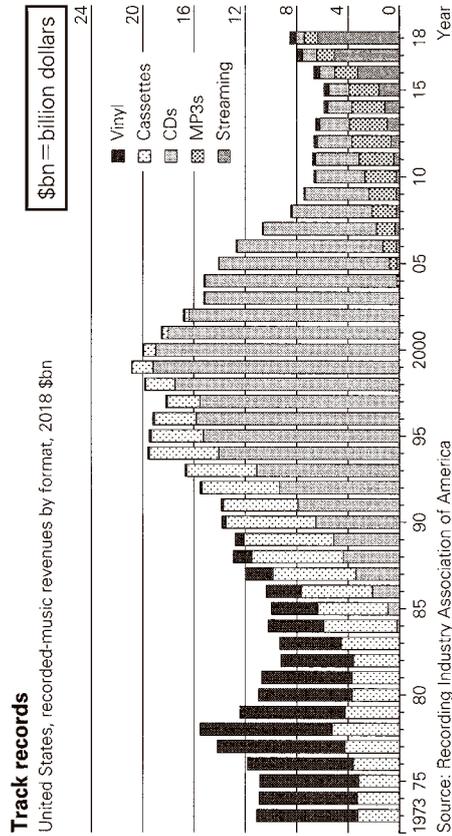
(21) In order to start the game, Dennis first needs to ( 21 ).

- ① send some money to the specified account
- ② open a bank account
- ③ create a link for the game
- ④ wait until the game company sends a link to him

〔Ⅲ〕 次の問1～問2の設問に答えなさい。

問1 次の図を見て、(22)～(25)の答えとして最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選びなさい。

The following shows the sales of recorded music in different formats from 1973 to 2018.



Modified from source: <https://www.economist.com/graphic-detail/2019/10/18/the-strange-revival-of-vinyl-records>

(22) What does “Streaming” in the graph stand for?

- ① A continuous series of success in sports
- ② A method of transmitting data from the internet to a user’s computer or phone
- ③ The way water moves from one place to another
- ④ A road in a city, town or village that usually has houses along it

(23) According to the graph, which of the following is correct?

- ① CDs are the mostly widely sold format of recorded music in the 1980s.
- ② After 2010, the sales of vinyl records started to increase.
- ③ Cassette tapes were not created yet in the 1970s.
- ④ People started to buy music in the form of MP3s from 2000.

(24) Which of the following has the largest music sales seen in the graph?

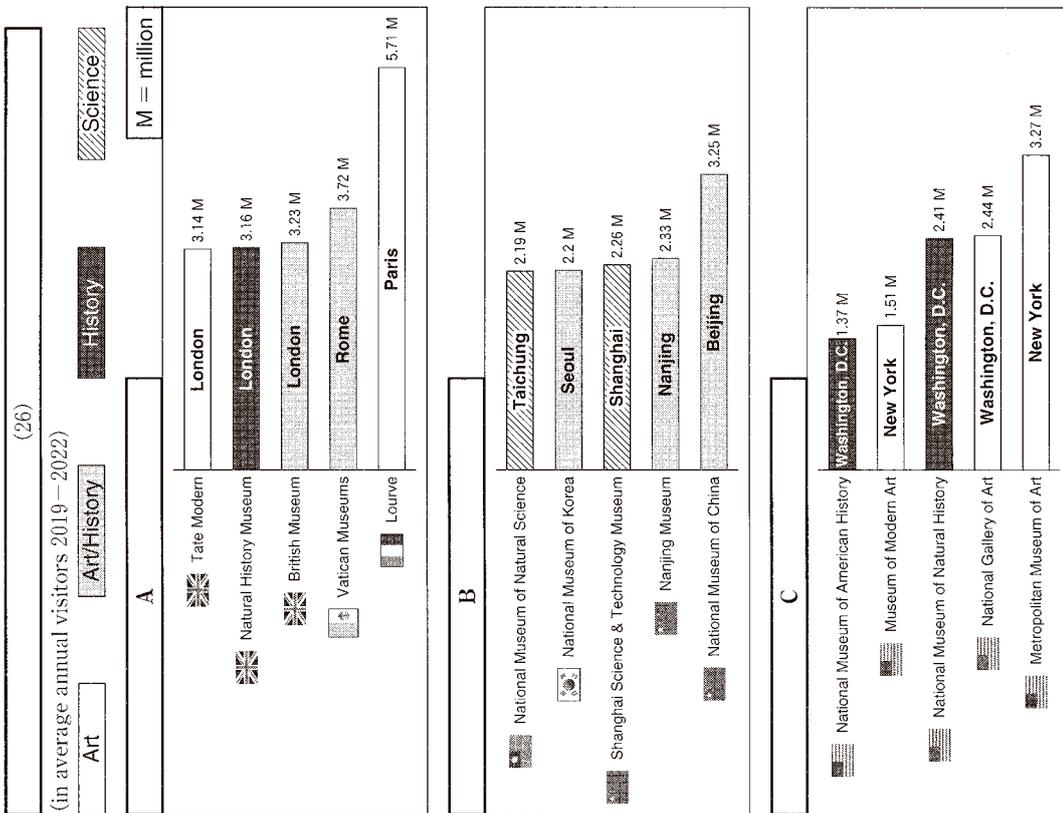
- ① Vinyl in 1975
- ② Streaming in 2018
- ③ Cassettes in 1990
- ④ CDs in 1995

(25) Which of the following can be interpreted from the graph?

- ① Recorded music is not worth buying since they can be easily found on the internet.
- ② All music companies in the United States have started to produce vinyl records.
- ③ Online music has been popular since 2000.
- ④ From 2000 to 2010, the market for CDs has been on a general decline.

問 2 次のグラフを見て、(26)～(29)の答えとして最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選びなさい。

The following graph shows information on museums.



Modified from source: <https://www.statista.com/chart/30022/most-popular-museums-by-continent/>

(26) Which of the following best fits (26) in the title of the diagram?

- ① Number of museums in every country
- ② Most popular types of museums
- ③ Number of major cities with museums
- ④ Most visited museums by region

(27) Which of the following best fits A ~ C in the diagram?

- ① A: North America, B: Europe, C: Asia
- ② A: Europe, B: North America, C: Asia
- ③ A: North America, B: Asia, C: Europe
- ④ A: Europe, B: Asia, C: North America

(28) According to the data in the diagram, which of the following countries has the highest number of visitors to the most visited museums?

- ① The United Kingdom
- ② China
- ③ France
- ④ The United States of America

(29) According to the diagram, which of the following is NOT correct?

- ① In the United States of America, many well-visited museums are found in Washington D.C.
- ② In Europe, people like visiting science museums more than art museums.
- ③ In China, art and history museums are less popular than science museums.
- ④ The most popular museums that people go to are mostly in the big cities around the world.

[W] 次の英文を読んで設問に答えなさい。

The most recent Olympic Games, the 2024 Summer Olympics, took place from July 26 to August 11, 2024 in France. The Games were known as Paris 2024, Paris being the main host city. The Olympic Games make up a major international multi-sport event that is held once every four years. The 2020 Summer Olympic Games hosted by Tokyo were delayed by a year due to the COVID-19 pandemic. However, the Games were eventually held in 2021, signifying the importance of the event ( 30 ) a global pandemic.

The Olympic Games have an extremely rich and long history. Written records showed that the first official Games were from 776 BC. They were held once every four years in honor of the Greek god Zeus. The Games had both athletic and artistic events. They were an important tradition linking sports, culture, religion and the value of peace.

Unconfirmed records showed that the ancient Olympic Games eventually ended but were brought back to life in 1894. Baron Pierre de Coubertin, the father of the modern Olympic Games, founded the International Olympic Committee (IOC). This led to the first modern Games in Athens in 1896. The IOC created the basic goals of the Olympic Games that were listed on the official Games website. These were:

- To promote the development of the physical and mental qualities of sport;
- To build understanding and friendship among people for a more peaceful world;
- To create an international sense of goodwill; and
- To bring athletes worldwide together to celebrate sport.

These goals have continued to guide the hosting of the Games till today.

Over the years, the Games were changed and reformed little by little.

Women were allowed to take part for the first time in the Paris 1900 Olympic

Games. The first Winter Olympic Games were held in 1924. The first Paralympic Games were held in 1960. The first Youth Olympic Games were held in 2010. These three variations of the Olympic Games continue to be held regularly till today. There has also been a huge increase in the number of sporting events held in the Games. For example, Paris 2024, for the first time, had Breaking, which is breakdancing, as an Olympic event. In this way, there were many milestones in the history of the Games.

Hosting the Olympic Games has pros and cons that sometimes lead to conflicts and unhappiness. Even so, one should hope that the Olympic Games will continue for a long time with its basic goals in mind.

問 本文の内容に関する(30)～(35)に対する答えとして最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選びなさい。

(30) Which of the following choices is most suitable for ( 30 )?

- ① without
- ② despite
- ③ regarding
- ④ except

(31) According to the article, which statement is true of the ancient Olympic Games?

- ① According to written records, the first official Games were held in the 10th century.
- ② The ancient Olympic Games were a major international multi-sport event held every three years.
- ③ The ancient Olympic Games were held in celebration of the Greek god.
- ④ The ancient Olympic Games had summer and winter sessions.

- (32) According to the article, which statement is correct about the International Olympic Committee (IOC)?
- ① Baron Pierre de Coubertin decided to abolish the IOC.
  - ② The IOC was founded in 776 BC as an organization to host the ancient Olympic Games.
  - ③ Baron Pierre de Coubertin is called the father of the Olympic Games because he gradually reformed the Games.
  - ④ The IOC set four basic goals of the Olympic Games and listed them on the official Games website.
- (33) According to the article, which of the following is included in the goals of the modern Olympic Games as set by the IOC?
- ① Promoting economic development in developing countries
  - ② Increasing sales of goods of the Olympic Games
  - ③ Promoting international understanding and world peace
  - ④ Spreading the ban on illegal drug use in sports
- (34) According to the article, which of the following is NOT a change in the modern Olympic Games?
- ① Women were allowed to participate as athletes.
  - ② Winter Games are regularly held in conjunction with the Olympic Games.
  - ③ The Paralympic Games are now part of the Olympic Games.
  - ④ Martial arts such as Muay Thai and Brazilian jiu-jitsu were added as events in Olympic competitions.
- (35) What is the message of the article?
- ① The history of the Olympic Games is relatively short.
  - ② The ancient Olympic Games disappeared, but fortunately the Olympic Games were revived in the 20th century.
  - ③ There are conflicting opinions in favor of and against the hosting of the Olympic Games, but the Games should be continued with the goals in mind.
  - ④ Since Tokyo 2020 was an economic failure, many people in Japan believe that the Olympic Games should be discontinued in the future.

## 令和7年度 一般選抜試験問題解答例

国語 配点100点

- 〔一〕 問一 (ア) 手土産 (イ) 困窮 (ウ) 垣根  
(エ) またた (オ) 漏  
(2点×5)
- 問二 (1) ③ (2) ④ (3) ① (3点×3)
- 問三 ④ (7点)
- 問四 ② (7点)
- 問五 ③ (8点)
- 問六 ⑤ (8点)
- 問七 ⑤ (7点)
- 問八 ④ (4点)

〔二〕 (甲)

- 問一 (ア) 潮流 (イ) 歳暮  
(ウ) 禍根 (エ) わいろ (2点×4)
- 問二 (1) ④ (2) ① (3点×2)
- 問三 ② (7点)
- 問四 金持ちは道徳的にも優れている、あるいは優れていなければならない  
(5点)
- 問五 ⑤ (7点)
- 問六 ③ (7点)

〔二〕 (乙)

- 問一 (1) ③ (2) ② (3) ② (3点×3)
- 問二 ③ (5点)
- 問三  
え | も | 言は | ず | せ | させ | たまふ  
(完答で4点)
- 問四 異国の人間であり年も若い少将を、御門が格別に厚遇して側近くに置いているから。 (6点)
- 問五 ① (4点)
- 問六 ④ (4点)
- 問七 ⑤ (5点)
- 問八 ④ (3点)

# 令和7年度 一般選抜試験問題解答例

理科 配点100点

## 化学基礎

### I (25点)

問1 ア 元素    イ 元素記号    ウ 単体  
エ 化合物    オ 同素体  
(1点×5)

問2 (1) ウ ② ③ ⑦ ⑧ ⑩  
エ ① ④ ⑤ ⑥ ⑨  
(1点×10)

(2) ② と ⑦    ③ と ⑧  
(2点×2)

問3 (1) 炎色反応  
(2) 黄色：Na    青緑色：Cu  
(2点×3)

### II (25点)

問1 (1) イオン化エネルギー or  
第一イオン化エネルギー (1点)  
(2) ヘリウム    ネオン    アルゴン  
(3) カリウム    ナトリウム    リチウム  
(1点×6)

問2 (1) イオン結合    (2) 共有結合  
(3) 分子間力    (4) 対電子  
(5) クーロン力 or 静電気力  
(2点×5)

問3 (1) 電子式    構造式

$$\begin{array}{c} \text{:}\ddot{\text{Cl}}\text{:} \\ \text{:}\ddot{\text{Cl}}\text{:}\ddot{\text{C}}\text{:}\ddot{\text{Cl}}\text{:} \\ \text{:}\ddot{\text{Cl}}\text{:} \end{array} \quad \begin{array}{c} \text{Cl} \\ | \\ \text{Cl}-\text{C}-\text{Cl} \\ | \\ \text{Cl} \end{array}$$

(2) 電子式    構造式

$$\begin{array}{c} \text{H} & \text{H} \\ \text{:} & \text{:} \\ \text{C} & \text{:} & \text{C} \\ \text{:} & & \text{:} \\ \text{H} & & \text{H} \end{array} \quad \begin{array}{c} \text{H} & & \text{H} \\ & \diagdown & / \\ & \text{C}=\text{C} & \\ & / & \diagdown \\ \text{H} & & \text{H} \end{array}$$

(2点×4)

### III (25点)

問1 ア ② メスフラスコ  
イ ⑦ ホールピペット  
ウ ① コニカルビーカー  
エ ⑧ ビュレット  
(番号：1点×4、名称：2点×4)

問2 フェノールフタレイン (2点)

問3 (1) 0.050 or  $5.0 \times 10^{-2}$  mol/L (2点)

(2) 0.10 or  $1.0 \times 10^{-1}$  mol/L (3点)

(3) 0.68 or  $6.8 \times 10^{-1}$  mol/L  
4.0 % (3点×2)

### IV (25点)

問1 a 酸化    b 還元    c 還元    d 酸化  
e 酸化    f 還元 (1点×6)

問2 (1) +6    (2) -3 (2点×2)

問3 (1)  $\text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow \text{O}_2 + 2\text{H}^+ + 2\text{e}^-$  (2点)  
 $\text{MnO}_4^- + 8\text{H}^+ + 5\text{e}^- \rightarrow \text{Mn}^{2+} + 4\text{H}_2\text{O}$  (2点)

(2)  $2\text{MnO}_4^- + 5\text{H}_2\text{O}_2 + 6\text{H}^+ \rightarrow 2\text{Mn}^{2+} + 5\text{O}_2 + 8\text{H}_2\text{O}$  (2点)

(3)  $2\text{KMnO}_4 + 5\text{H}_2\text{O}_2 + 3\text{H}_2\text{SO}_4 \rightarrow 2\text{MnSO}_4 + 5\text{O}_2 + 8\text{H}_2\text{O} + \text{K}_2\text{SO}_4$  (3点)

(4) 1.0 mol/L    3.4 % (3点×2)

# 令和7年度 一般選抜試験問題解答例

理科 配点 100 点

## 生物基礎

### I (25 点)

- 問1 (1) (ア) ウイルス  
(イ) DNA  
(ウ) タンパク質 (2点×3)  
(2) (エ) (オ) ハーシー チェイス  
(1点×2)  
(3) T<sub>2</sub>ファージの外殻が菌体 (大腸菌)  
の表面から外れる。 (3点)  
(4) (イ) 沈殿した大腸菌  
(ウ) 上澄み (2点×2)  
(5) 遺伝子の本体はDNAである。  
(4点)
- 問2 ① × ② ○ ③ × (2点×3)

### II (25 点)

- 問1 (1) 恒常性 (ホメオスタシス)  
(2点×1)  
(2) (ア) 組織液 (イ) 赤血球  
(ウ) 白血球 (エ) 無  
(オ) 骨髄 (カ) 肝臓  
(キ) ヘモグロビン  
(ク) 食作用 (ケ) 血液凝固  
(2点×9)  
(3) 鎖骨下静脈 (3点)  
(4) ③ (2点)

### III (25 点)

- 問1 (1) (ア) グリコーゲン  
(イ) インスリン  
(ウ) アンモニア (エ) 尿素  
(オ) 解毒 (カ) 脂肪  
(2点×6)  
(2) 静脈血 (2点)  
(3) B細胞 (2点)  
(4) グルカゴン アドレナリン  
成長ホルモン チロキシン  
から2つ  
(2点×2)  
(5) 糖新生 (2点)  
(6) アルブミン (3点)

### IV (25 点)

- 問1 (1) (ア) 細胞 (イ) 細胞膜 (ウ) ATP  
(エ) ミトコンドリア (オ) 水  
(カ) 葉緑体 (光合成色素)  
(キ) 光エネルギー (ク) 酸素  
(2点×8)  
(2) すべての生物は共通の祖先から進  
化したことがいえる。 (3点)  
(3) 25℃ (3点)  
(4) 20℃ (3点)

# 令和7年度 一般選抜試験問題解答例

英語 配点 100 点

- 〔Ⅰ〕 問 1 (1) ② (2) ① (3) ④ (4) ② (2 点 × 4)  
問 2 (5) ③ (6) ① (7) ② (2 点 × 3)
- 〔Ⅱ〕 問 1 (8) ② (9) ① (10) ① (2 点 × 3)  
問 2 (11) ② (12) ④ (13) ① (3 点 × 3)  
問 3 (14) ④ (15) ② (16) ① (17) ③ (3 点 × 4)  
問 4 (18) ② (19) ③ (20) ④ (21) ① (3 点 × 4)
- 〔Ⅲ〕 問 1 (22) ② (23) ② (24) ④ (25) ④ (3 点 × 4)  
問 2 (26) ④ (27) ④ (28) ④ (29) ② (3 点 × 4)
- 〔Ⅳ〕 問 (30) ② (3 点)  
(31) ③ (32) ④ (33) ③ (34) ④ (35) ③ (4 点 × 5)





# 試験会場までの案内

## 本学会場

### 盛岡大学

岩手県滝沢市砂込808番地  
〒020-0694 ☎019-688-5560

#### 交通案内

◎盛岡市内から  
岩手県北バス「盛岡大学行」または「沼宮内行」乗車  
「盛岡大学」または「盛岡大学前」下車

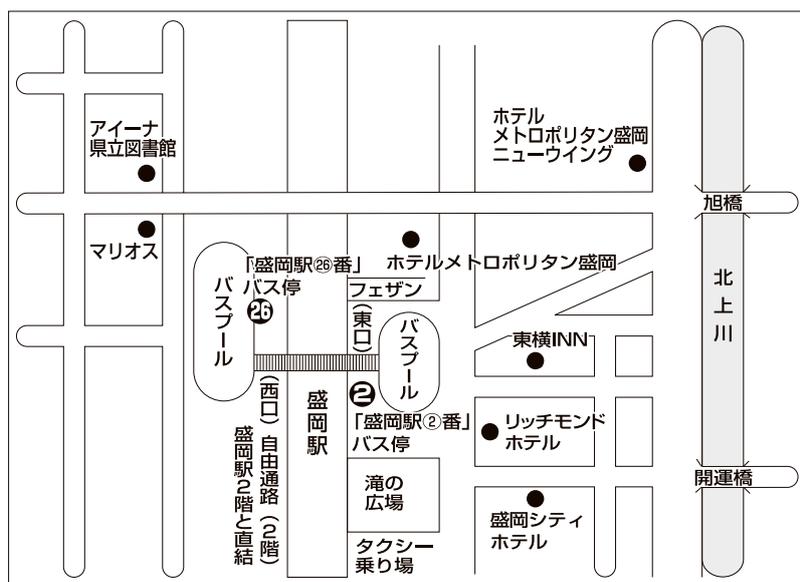
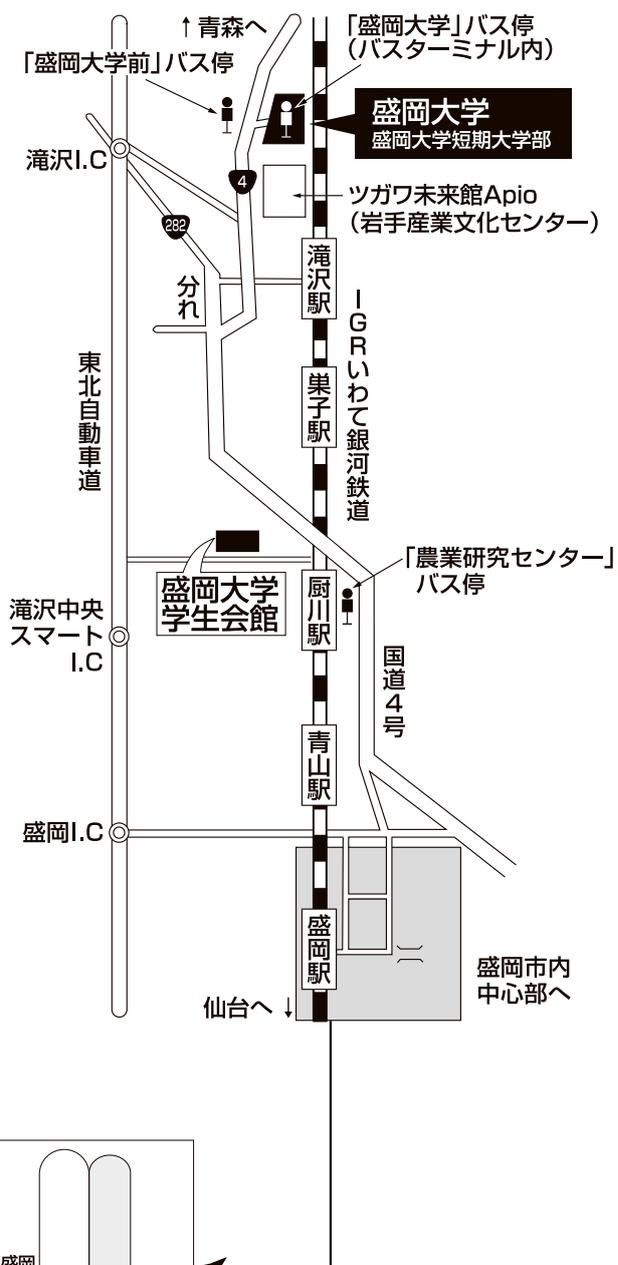
#### 所要時間

「盛岡バスセンター」から約40分  
「盛岡駅東口②番」から約30分  
「盛岡駅西口⑳番」から約30分

#### ◎自動車

東北自動車道滝沢インターチェンジより国道4号を  
青森方面に向かい約5分

\* 「盛岡駅東口②番」と「盛岡駅西口⑳番」  
バス停は下図参照



## 仙台会場

〔文学部 一般選抜 前期〕

〔栄養科学部 一般選抜〕

令和8年2月7日(土)

### TKPガーデンシティ PREMIUM 仙台西口

宮城県仙台市青葉区花京院 1-2-15  
ソララプラザ

交通案内……………

◎JR 仙台駅西口 徒歩3分

◎南北線仙台駅(地下鉄) 徒歩3分



## 青森会場

〔文学部 一般選抜 前期〕

〔栄養科学部 一般選抜〕

令和8年2月7日(土)

### 青森県観光物産館 アスパム

青森県青森市安方1丁目1番40号

交通案内……………

◎JR 青森駅 徒歩8分



## 秋田会場

〔文学部 一般選抜 前期〕

〔栄養科学部 一般選抜〕

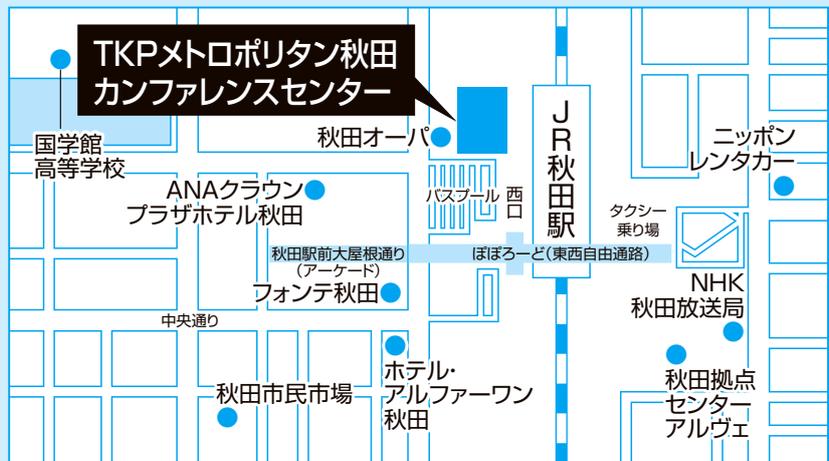
令和8年2月7日(土)

### TKPメトロポリタン秋田 カンファレンスセンター

秋田県秋田市中通7-2-1  
ホテルメトロポリタン秋田

交通案内……………

◎JR 秋田駅西口 徒歩1分



- 総合型選抜（専願制）要項
- 特別選抜要項（願書）
- その他資料請求



はこちらから

〒020-0694 岩手県滝沢市砂込 808 番地

**盛岡大学・盛岡大学短期大学部 入試センター**

☎ 019-688-5560 (直) ☎ 019-688-5555 (代)

<https://www.morioka-u.ac.jp/>

E-mail : [mcnyushi@morioka-u.ac.jp](mailto:mcnyushi@morioka-u.ac.jp)

#### **盛岡大学・盛岡大学短期大学部 資料請求における個人情報の取扱いについて**

ご提供いただいた個人情報は、学内で管理し、大学案内や願書、オープンキャンパスの案内等本学の情報の発信のため以外には使用しません。学内資料作成のために個人を特定しない形で、統計的な調査に使用する場合があります。

今後、本学からの資料の発送等の情報提供が不要の場合は本学入試センターにご連絡ください。